

茨城調査時報

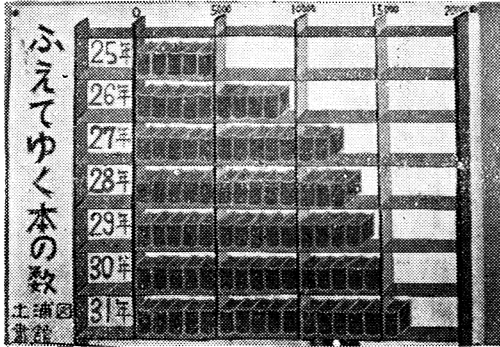


目次

第七回茨城県調査統計展盛大に関かる……………	1
昭和31年冬期農業基本調査迫る……………	3
毎月勤労統計調査結果速報……………	4
昭和31年夏期農業基本調査結果の概要……………	12
毎月人口世帯異動調査結果速報……………	15
新市町村の横顔……………	17
昭和30年工業統計調査結果速報(その4)……………	19
9,10月における農村物価賃金の動き……………	23
生産動態調査……………	27
昭和31年工業統計調査について……………	33
統計用語の解説・編集室……………	34

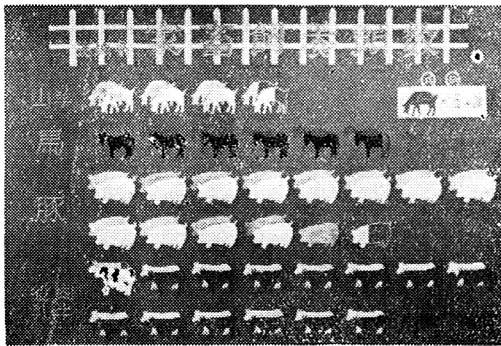
1956.12

(第1部 1位) ふえてゆく本の数



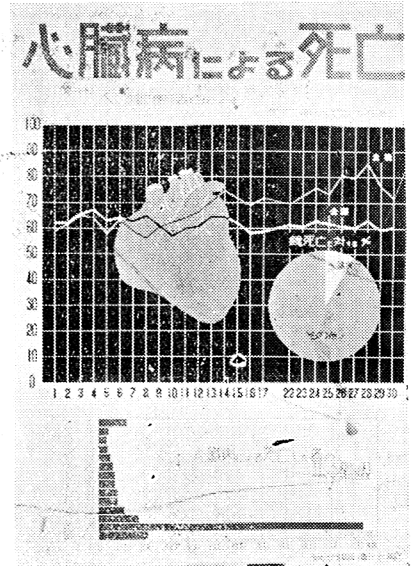
土浦第二小学校6年 福永友保

(第2部 1位) 家畜飼養頭数

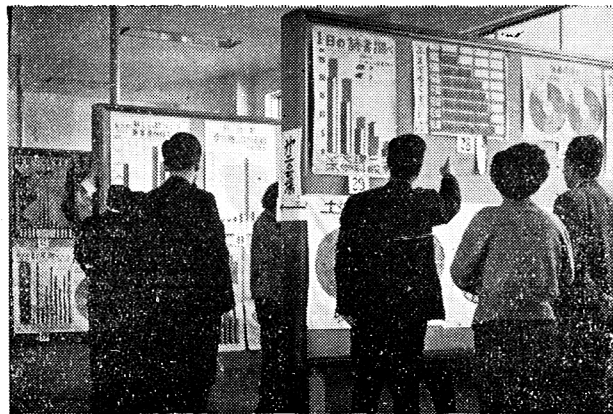


真壁郡新治中学校3年 須賀水戸里 塚田みどり

(第3部 1位) 心臓病による死亡



県衛生部医薬務課 長谷川 清



(会 場 風 景)

第七回茨城県調査統計展盛大に開かる

入選作品 25 点 決 る

県では統計協会と共催で統計思想と表現技術の向上を計るために、去る11月26日から4日間にわたり、第七回茨城県調査統計展を県立図書館において開催したが、総参加作品は94点（小学校の部41点、中学校および高等学校の部40点、一般の部13点）と昭和30年全国コンクール入選作品40点、特別出品6点の多きに達し、観覧者は学生、生徒、児童をはじめ、一般人など毎日400～500名にのほり大きな成果を収めてその幕を閉じた。なお入選者は下記のとおりであるが、去る 19、20日は地方展示会を土浦において開催した。

~~~~ 第7回茨城県調査統計展入選者 ~~~~

◆第一部（小学校の部）

- 1位 ふえてゆく本の数
土浦市立土浦第二小学校 6年 福永 友保
- 2位 やさいのすききらいしらべ
土浦市立土浦第二小学校 1年 山本真知子
- 3位 おたんじょうしらべ
猿島郡境町立猿島小学校 1年 小島くに子
渡辺 みえ
- 佳作 こうつうしらべ
土浦市立土浦第二小学校 1年 矢野千恵子
- 佳作 夏休みの生活表
土浦市立土浦第二小学校 3年 高木 照枝
- 佳作 とう校しらべ
土浦市立土浦第二小学校 3年 清水 一成
椎名 正弘
- 佳作・廊下の歩行しらべ
土浦市立土浦第二小学校 4年 土金 冷子
大圃田鶴子
- 佳作 夏休みの読書しらべ
土浦市立土浦第二小学校 5年 高橋 武久
- 佳作 映画の調査
土浦市立土浦第二小学校 6年 山下 晃
- 佳作 八月の気温と水温
西茨城県笠間町立高田小学校 6年 高野 暢子
- 佳作 夏休中の雲の種類表
結城市立結城小学校 6年 速藤 武明

◆第二部（中学校・高等学校の部）

- 1位 茨城県家畜飼養頭数
真壁郡協和村立新治中学校 3年 須賀水戸里
塚田みどり

- 2位 茨城県葉煙草耕作面積
真壁郡協和村立新治中学校 3年 新井 アキ
菊地千枝子
- 3位 結城市人口増減表
結城市立結城中学校 2年 古谷 静子
- 佳作 米・大麦の収穫高
真壁郡協和村立新治中学校 2年 藤田 巖
- 佳作 人口統計
稲敷郡阿見町立阿見中学校 3年 鮫島 直和
- 佳作 茨城県平均賃金の推移
真壁郡協和村立新治中学校 3年 野沢トモ子
- 佳作 茨城県市町村分布図
// 人口密度
// 水田面積分布図
// 果樹園分布図
// 茶園分布図
常磐女子高等学校 1年 桐原 玉枝
稲田 操子
磯崎 孝子
吉田 文子
大和田恵子
鈴木 枝子
佐藤 純子

◆一般の部

- 1位 心臓病による死亡
県衛生部医薬務課 長谷川 清
- 2位 各市人口
結城市役所 宮田 良二
- 3位 茨城県におけるたばこ消費高
日本専売公社水戸地方局 浜津 昭夫
- 佳作 茨城県農業をグラフでみる
東茨城県石崎村 藤咲 憲
- 佳作 民事事件新受付数の推移
民事訴訟受付の訴訟物の価額
調停を求める事項の価額
水戸地方裁判所資料室 神原 弘道
- 佳作 失業保険の動き
水戸市元吉田町 県営住宅8号 山本 敬一
- 佳作 主要死因
県衛生部医薬務課 長谷川 清

茨城県調査統計展 入賞者の表彰式挙る

第七回茨城県調査統計展入賞者の表彰式は、去る12月1日午前10時から県総務部長室において、上位入選者および教師、父兄関係者など20名が出席の上挙行され、賞状および賞品がそれぞれ贈られた。式終了後記念撮影を行い、第二委員会室において座談会を開き、入選者の感想や苦心談、今後の希望などを話合った。

▷出席者芳名<

県医業務課 長谷川 清 結城市役所 宮田 良二
 水戸専売公社地方局 浜津 昭夫
 土浦第二小学校 6年 福永 友保 教員 大塚 芳江
 1年 山本真知子 母 山本美代子
 境町立猿島小学校1年 小島くに子
 〃 渡辺 みえ 代理教員 関清治
 真壁郡新治中学校 3年 須賀水戸里 教員宮本豊一郎
 〃 塚田みどり
 〃 荒井アキ 菊地千枝子
 結城市結城中学校 2年 古谷静子 母 古谷とみ
 県調査企画課長 平野逸郎 課長補佐 山中平守
 課員 野上義男 川崎和二 皆川ふみ子 中西登美子
 福永 友達と2人でやる計画だったが、とうとう1人

で作成することになったので、どういう風にするか非常に迷った。

大塚 山本さんには夏休みの課題として書いてもらいましたが、学課の絵の成績も非常によい児童である。

関 猿島小学校は、統計教育の実験校であるが遠隔地の上に、通知が遅かったので本人が出席できませんでした。クラブ活動が非常に活発なので、統計図表に対する認証や関心も深い。統計展や講習会を毎年継続して開催してもらいたい。特に講習会などには若干の参加費を取ってもよいでしょう。

須賀・塚田 図表の作成には約7日～10日位かかったが、棒グラフ、絵グラフにするかで構図に迷い、最後はくじ引で決めました。

荒井・菊地 品種別のパイグラフは2度色を塗り直しなどとして非常に苦労したが、特に字型には迷いました。

古谷 紙の地色をそのまま作ったので、それに合せての色塗りに大変苦労しました。

長谷川 漢字の点で非常に苦心して3回も書き直しました。

宮田 メ切日が迫り、全部を3日間で仕上げたが、バッグの色塗りの余裕がなかった。

◇……昭和32年冬期農業基本調査迫る……◇

県では来年2月1日現在を期して、県下一斉に昭和32年冬期農業基本調査を実施することになった。この調査は、茨城県農業基本調査規則第2条に基づいて県内の冬期における農業の実態を調べて県農業施策の基礎資料とするものである。これは従来毎年12月末現在で実施してきたものであるが、その他の諸調査との交錯を避けるとともに、農閑期を利用して調査および報告の円滑適正を期するよう時期を変更したのである。県ではこの調査が円満に実施できるように支庁および各市町村関係者や調査員各位の御協力を要望している。

1. 調査の範囲

調査の時期に現存する次の農業事業体につき実施する

(一) 全部調査

1. 農業事業体（農家及び学校、会社、協同組合、試験場、その他共同経営等）全般にわたって行う。但し調査の規模は経営耕地面積5畝以上とする。
2. 例外規定の農家〔調査の規模が経営耕地面積5畝以下で農業（耕種、養畜、養蚕の1以上）を営み昭和31年度中に農業生産物の販売額が2万円以上のもの〕

(二) 一部調査

経営耕地面積5畝以上の農家（その他の農業事業体は除く）を $\frac{1}{20}$ 抽出する。

2. 調査事項

(一) 全部調査

1. 世帯主（管理者）の氏名
2. 農家人口（男女別）
3. 経営土地の面積
4. 他市町村の作出面積
5. 耕地の団地数及び通作距離
6. 冬作物作付面積
7. 家畜家禽の飼養頭羽数
8. 農業用機械台数

(二) 一部調査

1. 経営土地の面積
2. 冬作物の作付面積（麦類、なたねの総作付面積）
3. 品種別作付面積（大麦、ビール麦、はだか麦、小麦なたね）

3. 調査の期間

1. 市町村長は、知事の指揮を受けて、その区域内の調

査を執行する。

2. 市町村長は、調査を執行するために、調査員を調査の担当者として調査の指揮にあたる。

4. 調査及び集計の方法

1. 調査員は、市町村長の指揮を受けて担当区域内の農業事業体の世帯主（管理者）に調査票を配付するとともに、調査内容を申告者に納得のゆくよう説明し記入を依頼する。
2. 調査員は調査が終了したならば調査票を点検し、調査もれや誤記のないことを確認した後、農業事業体の番号順に調査票を整理し、2月10日までに市町村長に提出する。
3. 市町村長は、調査員から提出された調査票を審査し不備の点は調査員に再調査させ、調査票が完全になつたならば市町村結果表の作成にあたる。
4. 集計の方法は別冊結果表作成要領参照する。

5. 調査票及び結果表の提出

1. 市町村長は市町村結果表3部を作成し、2部を調査票とともに2月28日（1部調査にありては3月10日）までに支庁長に提出する。
2. 支庁長は、市町村長から提出された結果表を審査し不備の点は、市町村長にただし、市町村結果表が完全になつたならば、郡結果表2部を作成し、郡及び市町村結果表各1部を支庁に保管し他の1部を調査票とともに3月20日（1部調査にありては3月30日）までに知事に提出する。

6. 結果の公表

県において内容を審査し、集計完了後すみやかに公表する。

（麦類、なたね品種別調査農家抽出要領）

昭和30年に作成した農業事業体の名簿を、その後加除訂正し、市においては調査区順に郡においては管内町村の調査区順に左の抽出起番号を基準に調査区に關係なく抽出間隔20番ごとに農家（その他の農業事業体を除く）を抽出選定する。なお市郡別抽出起番号は次のとおりである。

水戸市6 日立市5 土浦市7 古河市6 石岡市3
 下館市9 結城市4 竜ヶ崎市8 那珂湊市7 下妻市8
 水海道市11 常陸太田市6 勝田市8 高萩市7
 北茨城市9 東茨城郡8 西茨城郡5 那珂郡5
 久慈郡10 多賀郡12 鹿島郡8 行方郡10 稲敷郡3
 新治郡4 筑波郡6 真壁郡9 結城郡4 猿島郡8
 北相馬郡10

毎月勤労統計調査結果速報

(昭和 31 年 9・10 月 分)

労働省大臣官房労働統計調査部

茨 城 県

— 結 果 の 概 況 —

1. 現 金 給 与

1人当り現金給与総額を前月に比較して見ると、9月は16,641円で475円の増加、10月は15,143円で1,498円の減少である。9月の増加は金融保険業の期末手当(16,358円)電気機械器具製造業の臨時給与(10億増資記念)の支給があつたので増加した。一方他の産業では夏期手当(紡織業、鉱業のみ)の打切りによる減少以外は著しい変化はなかつた。

10月は15,143円で9月に比べ、1,498円の減少である。これは前記諸手当などの打切りによるものである。

※きまつて支給する給与の9月は総数で145円の増加、紡織業、機械製造業、電気機械器具製造業は微増した。10月は総数でわづかではあるが35円の増加である。従つて各産業とも余り変化は見られない。

2. 労 働 時 間

9月の常用労働者1人平均月間実労働時間数は調査

産業総数で2.1時間の増加である。鉱業は需要期を控えて2.4時間、運輸通信業は行楽期のため2.8時間の増加である。10月は202.5時間で0.3時間の微増、しかし鉱業は6.5時間、紡織業は5.2時間と前月に引続き増加した。

3. 労 働 者 数

常用労働者数は前月に比して9月は68,286人で707人10月は434人と何れも増加である。労働異動を見ると電気機械器具製造業が9月で979人。(10月)で956人と最高の増加を示し、次に鉱業の578人(10月)の増加である。減少労働者数を見ると鉱業が518人(10月)、232人(9月)が最高を示した。次で電気機械器具製造業304人(9月)360人(10月)となつた。建設業は日雇労働者が他の産業にくらべて多いため常に労働異動は他の産業より活発に行われているが本月も依然として他の産業を凌ぎ最高である。なお月末労働者数は9月707人。10月334人の増加である。

産業別常用労働者1人平均月間現金給与額

産 業 別	現 金 給 与 額	
	9 月	10 月
総 数	16,641 円	15,143
D 鉱 業	14,417	14,907
F 製 造 業	16,173	14,069
20 食 料 品 製 造 業	11,917	11,594
22 紡 織 業	5,877	6,039
35 機 械 製 造 業	12,863	12,942
36 電 気 機 械 機 具 製 造 業	19,721	15,996
G 卸 売 及 び 小 売 業	12,324	12,264
H 金 融 及 び 保 険 業	37,434	20,938
J 運 輸 通 信 及 び そ の 他 の 公 益 事 業	17,087	17,649
E 建 設 業	10,125	9,436
K88 医 療 保 健 業	14,555	14,549

【 9 月 分 】

第 1 表 産業別常用労働者の種類及び性別 1 人平均月間現金給与額並びに産業別臨時及び日雇労働者の 1 人 1 日平均現金給与額 (規模30人以上) (単位円)

産 業 名	現金給与総額			きまつて支給する給与			特別に支払われ た 給 与			臨時及び日雇 労働者の 1 人 1 日平均現金 給与額
	総 数	男 子	女 子	総 数	女 子	男 子	総数	男子	女子	
全 常 用 勞 働 者										
総 数	16,641	18,765	8,148	15,020	16,952	7,294	1,621	1,813	854	273
D 鉱 業	14,417	15,255	6,009	14,349	15,182	5,991	68	73	18	299
F 製 造 業	16,173	19,258	6,770	14,275	16,874	6,354	1,898	2,384	416	315
20 食 料 品 製 造 業	11,917	14,505	5,391	11,726	14,336	5,145	191	169	246	367
22 紡 織 業	5,877	12,272	4,970	5,877	12,272	4,970	0	0	0	262
35 機 械 製 造 業	12,863	14,136	6,492	12,863	14,136	6,492	0	0	0	362
36 電 気 機 械 器 具 製 造 業	19,721	21,905	8,583	16,500	18,264	7,504	3,221	3,610	1,079	370
G 卸 売 及 び 小 売 業	12,324	14,192	6,482	12,324	14,192	6,482	0	0	0	267
H 金 融 及 び 保 險 業	37,434	47,071	19,891	20,576	25,802	11,062	16,858	21,269	8,829	0
T 運 輸 通 信 業 及 び その他の公益事業	17,087	18,061	10,671	17,039	18,013	10,671	48	48	0	263
E 建 設 業	10,125	10,775	5,889	10,125	10,775	5,889	0	0	0	280
K88 医 療 保 健 業	14,555	21,255	100,73	14,303	20,822	9,942	252	433	131	0
管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者										
D 鉱 業	14,195	14,890	5,522	14,141	14,833	5,499	54	57	23	—
F 製 造 業	13,265	15,927	6,105	11,999	14,290	5,837	1,266	1,637	268	—
20 食 料 品 製 造 業	10,435	12,977	4,819	10,240	12,792	4,103	195	185	216	—
22 紡 織 業	5,111	9,258	4,860	5,111	9,258	4,860	0	0	0	—
35 機 械 製 造 業	11,870	12,838	6,247	11,870	12,838	6,247	0	0	0	—
36 電 気 機 械 器 具 製 造 業	16,101	17,771	7,773	13,839	15,218	6,964	2,262	2,553	809	—
E 建 設 業	8,345	8,902	4,837	8,345	8,902	4,837	0	0	0	—
生 産 勞 働 者										
D 鉱 業	15,724	17,680	7,148	15,573	17,496	7,141	151	184	7	—
F 製 造 業	23,508	26,787	9,205	20,016	22,714	8,248	3,492	4,073	957	—
20 食 料 品 製 造 業	15,989	18,152	7,746	15,808	18,020	7,378	181	132	368	—
22 紡 織 業	11,625	14,333	7,071	11,625	14,333	7,071	0	0	0	—
35 機 械 製 造 業	15,857	18,444	6,971	15,857	18,444	6,971	0	0	0	—
36 電 気 機 械 器 具 製 造 業	26,857	29,819	10,239	21,649	24,096	8,607	5,077	5,723	1,631	—
E 建 設 業	13,792	14,585	8,259	13,792	14,585	8,259	0	0	0	—

第2表 産業別常用労働者の種類別及び性別1人平均月間実労働時間数及び出勤日数(規模30人以上)

産 業 名	総実労働時間数			所定内労働時間数			所定外労働時間数			出 勤 日 数		
	総 数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
全 常 用 勞 働 者												
総 数	202.2	205.6	188.3	182.4	182.7	181.1	19.8	22.9	7.2	24.4	24.5	23.9
D 鉱 業	192.4	193.8	178.6	169.9	169.8	171.3	22.5	24.0	7.3	23.4	23.4	23.7
F 製 造 業	213.2	220.3	191.5	187.3	188.6	183.2	25.9	31.7	8.3	24.8	25.2	23.7
20 食 料 品 製 造 業	205.8	213.1	187.4	185.6	187.7	180.3	20.2	25.4	7.1	24.5	25.1	23.0
22 紡 織 業	179.4	197.2	176.8	177.6	185.8	176.4	1.8	11.4	0.4	22.2	23.3	22.1
35 機 械 製 造 業	223.3	226.4	207.3	197.2	197.0	197.8	26.1	29.4	9.5	25.2	25.3	24.9
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	219.9	223.3	202.1	189.1	189.3	187.7	30.8	34.0	14.4	25.3	25.4	25.0
G 卸 売 及 び 小 売 業	197.2	195.5	202.9	186.0	181.7	199.7	11.2	13.8	3.2	25.7	25.8	25.4
H 金 融 業	173.7	174.5	172.1	166.9	167.5	165.8	6.8	7.0	6.3	24.4	24.5	24.2
E 建 設 業	190.3	192.0	179.0	181.8	183.0	174.1	8.5	9.0	4.9	23.8	23.8	23.8
K88 医 療 及 保 健 業	191.7	192.8	184.4	179.8	180.1	177.6	11.9	12.7	6.8	23.5	23.5	23.4
T 運 輸 通 信 及 び その他の公益事業	197.9	199.4	196.9	184.7	185.5	184.2	13.2	13.9	12.7	24.3	24.8	24.0
生 産 勞 働 者												
D 鉱 業	191.3	192.2	179.0	168.3	168.0	171.7	23.0	24.2	7.3	23.1	23.1	23.3
F 製 造 業	213.0	221.8	189.1	185.6	187.2	181.3	27.4	34.6	7.8	24.6	25.0	23.4
20 食 料 品 製 造 業	205.9	215.7	184.1	184.2	187.1	177.7	21.7	28.6	6.4	24.4	25.2	22.6
22 紡 織 業	177.2	195.3	176.1	175.8	175.4	175.8	1.4	19.9	0.3	22.0	22.0	22.0
35 機 械 製 造 業	223.9	226.4	209.0	196.1	196.0	196.9	27.8	30.4	12.1	25.2	25.2	24.8
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	220.3	224.2	200.5	187.3	187.7	185.3	33.0	36.5	15.2	25.1	25.1	24.8
E 建 設 業	180.3	181.3	174.2	170.6	170.5	170.9	9.7	10.8	3.3	22.5	22.5	22.9
管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者												
D 鉱 業	198.8	203.7	177.3	179.1	181.2	170.1	19.7	22.5	7.2	25.3	25.5	24.6
F 製 造 業	213.8	216.9	200.2	191.5	191.8	190.0	22.3	25.1	10.2	25.4	25.6	24.9
20 食 料 品 製 造 業	205.4	206.6	200.7	198.3	188.9	190.9	16.1	17.7	9.8	24.8	24.8	24.8
22 紡 織 業	196.1	198.6	191.9	191.3	192.9	188.6	4.8	5.7	3.3	23.9	24.1	23.6
35 機 械 製 造 業	221.5	226.5	204.3	200.3	200.4	199.7	21.2	26.1	4.6	25.4	25.4	25.2
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	219.0	221.6	205.3	192.6	192.6	192.5	26.4	29.0	12.8	25.7	25.8	25.3
E 建 設 業	215.1	216.1	207.0	198.7	199.5	192.5	16.4	16.6	14.5	25.4	25.5	24.6

第3表 産業別常用労働者の種類及び性別月末及び増加減少推計労働者数並びに産業別臨時及び日雇労働者の月間推計延人員(規模30人以上)

産 業 名	前日末労働者数			本日中の増加			本日中の減少			本日末労働者数			臨時及び日雇労働者の月間推計延人員
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	
全 常 用 勞 働 者													
総 数	67,579	53,958	13,621	1,850	1,500	350	1,143	734	409	68,286	54,724	13,562	47,937
D 鉱 業	10,821	9,849	972	305	253	52	232	201	31	10,894	9,901	993	10,252
F 製 造 業	34,613	25,951	8,662	1,385	1,116	269	755	421	334	35,243	26,646	8,597	13,152
20 食 料 品 製 造 業	2,887	2,062	825	28	17	11	125	76	49	2,790	2,003	787	3,266
22 紡 織 業	2,788	347	2,441	11	4	7	132	21	111	2,667	330	2,337	1,032
35 機 械 製 造 業	2,102	1,755	347	64	44	20	15	9	6	2,151	1,790	361	116
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	18,207	15,197	3,010	956	816	140	304	220	84	18,859	15,793	3,066	135
G 卸 売 及 び 小 売 業	4,332	3,273	1,059	59	45	14	53	21	32	4,338	3,297	1,041	1,698
H 金 融 及 び 保 險 業	2,559	1,653	906	26	26	0	33	33	0	2,552	1,646	906	0
J 運 輸 通 信 及 び 其 他 の 公 益 事 業	15,254	13,232	2,022	75	60	15	70	58	12	15,259	13,234	2,025	22,835
E 建 設 業	6,093	5,289	804	480	430	50	430	401	29	6,143	5,318	825	42,636
K88 医 療 保 健 業	2,424	969	1,455	21	7	14	36	8	28	2,409	968	1,441	0
生 産 勞 働 者													
D 鉱 業	9,245	8,558	687	274	246	28	221	195	26	9,298	8,609	689	—
F 製 造 業	24,712	17,897	6,815	1,228	1,009	219	628	337	291	25,312	18,569	6,743	—
20 食 料 品 製 造 業	2,109	1,443	666	23	14	9	79	35	44	2,053	1,422	631	—
22 紡 織 業	2,470	148	2,322	6	0	6	132	21	111	2,344	127	2,217	—
35 機 械 製 造 業	1,573	1,345	228	61	42	19	14	8	6	1,620	1,379	241	—
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	11,924	9,908	2,016	859	732	127	270	192	78	12,513	10,448	2,065	—
E 建 設 業	4,089	3,539	550	450	400	50	390	368	22	4,149	3,571	578	—
管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者													
D 鉱 業	1,576	1,291	285	31	7	24	11	6	5	1,596	1,292	304	—
F 製 造 業	9,901	8,054	1,847	157	107	50	127	84	43	9,931	8,077	1,854	—
20 食 料 品 製 造 業	778	619	159	5	3	2	46	41	5	737	581	156	—
22 紡 織 業	318	199	119	5	4	1	0	0	0	323	203	120	—
35 機 械 製 造 業	529	410	119	3	2	1	1	1	0	531	411	120	—
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	6,283	5,289	994	97	84	13	34	28	6	6,346	5,345	1,001	—
E 建 設 業	2,004	1,750	254	30	30	0	40	33	7	1,994	1,747	247	—

【10月分】

第1表 産業別常用労働者の種類及び性別1人平均月間現金給与額並びに産業別臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額 (規模30人以上) (単位円)

産 業 名	現金給与総額			きまつて支給する給与			特別に支払われた給与			臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額
	総 数	男 子	女 子	総 数	男 子	女 子	総数	男子	女子	
全 常 用 労 働 者										
総 数	15,143	17,038	7,444	14,985	16,885	7,264	158	153	180	286
D 鉱 業	14,907	15,777	6,031	14,824	15,694	6,031	83	83	0	300
F 製 造 業	14,069	16,561	6,272	14,012	16,487	6,266	57	74	6	270
20 食 料 品 製 造 業	11,594	14,165	5,150	11,594	14,165	5,150	0	0	0	341
22 紡 織 業	6,039	12,522	5,096	6,017	12,500	5,096	22	22	0	255
35 機 械 製 造 業	12,942	14,211	6,665	12,699	13,940	6,560	243	271	105	523
36 電機機械器具製造業	15,996	17,698	7,279	15,696	17,698	7,279	0	0	0	449
G 卸 売 及 び 小 売 業	12,264	14,103	6,328	12,264	14,103	6,328	0	0	0	274
H 金 融 及 び 保 険 業	20,938	26,213	11,308	20,938	26,213	11,308	0	0	0	0
J 運 輸 通 信 業 及 び その他の公益事業	17,649	18,534	11,906	17,132	18,118	10,737	517	416	1,169	294
E 建 設 業	9,436	10,119	5,382	9,439	10,119	5,382	0	0	0	299
K88 医 療 保 健 業	14,549	21,113	10,159	14,545	21,107	10,157	4	6	2	200
生 産 労 働 者										
D 鉱 業	14,718	15,437	5,498	14,713	15,432	5,498	5	5	0	—
F 製 造 業	11,756	13,889	5,759	11,700	13,833	5,759	56	56	0	—
20 食 料 品 製 造 業	9,948	12,368	4,603	9,948	12,368	4,603	0	0	0	—
22 紡 織 業	5,244	9,723	4,979	5,244	9,723	4,979	0	0	0	—
35 機 械 製 造 業	11,560	12,517	6,104	11,560	12,517	6,104	0	0	0	—
36 電機機械器具製造業	13,363	14,623	6,746	13,313	14,623	6,746	0	0	0	—
E 建 設 業	7,092	7,660	3,978	7,092	7,660	3,978	0	0	0	—
管 理 事 務 及 び 技 術 労 働 者										
D 鉱 業	16,016	17,997	7,198	15,475	17,456	7,198	7,198	541	541	0
F 製 造 業	19,987	22,690	8,118	19,925	22,621	8,112	8,112	62	69	6
20 食 料 品 製 造 業	16,156	13,508	7,396	16,156	18,508	7,396	7,396	0	0	0
22 紡 織 業	11,786	14,337	7,336	11,764	14,315	7,336	7,336	22	22	0
35 機 械 製 造 業	17,173	19,907	7,799	16,186	18,725	7,481	7,481	987	1,182	318
36 電機機械器具製造業	21,348	23,778	8,403	21,348	23,778	8,403	8,403	0	0	0
E 建 設 業	13,901	14,652	8,669	13,901	14,652	8,669	8,669	0	0	0

第2表 産業別常用労働者の種類別及び性別1人平均月間実労働時間数及び出勤日数(規模30人以上)

産 業 名	総実労働時間数			所定内労働時間数			所定外労働時間数			出 勤 日 数		
	総 数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
全 常 用 勞 働 者												
総 数	202.5	205.7	189.0	182.8	183.0	181.6	19.7	22.7	7.4	24.4	24.5	24.0
D 鉱 業	198.9	200.4	184.1	176.8	176.9	176.5	22.1	23.5	7.6	24.1	24.0	24.4
F 製 造 業	207.8	214.1	188.2	182.7	183.4	180.7	25.1	30.7	7.5	24.2	24.5	23.5
20 食 料 品 製 造 業	199.7	207.5	180.0	182.5	185.3	175.5	17.2	22.2	4.5	24.1	24.7	22.5
22 紡 織 業	184.6	202.0	182.2	182.8	190.2	181.8	1.8	11.8	0.4	22.9	23.8	22.7
35 機 械 製 造 業	219.3	223.0	201.1	193.4	193.6	192.5	25.9	29.4	8.6	24.6	24.7	24.5
36 電機機械器具製造業	211.6	214.9	194.6	182.2	182.4	181.0	29.4	32.5	13.6	24.4	24.4	24.2
G 卸 売 及 び 小 売 業	198.7	197.9	201.2	187.9	184.8	197.8	10.8	13.1	3.4	26.0	26.2	25.2
H 金 融 業	181.5	182.1	180.5	171.9	172.1	171.5	9.6	10.0	9.0	24.9	24.9	24.8
J 運 輸 通 信 及 び そ の 他 の 公 益 事 業	197.1	197.8	192.3	187.4	187.9	184.1	9.7	9.9	8.2	24.4	24.3	25.2
E 建 設 業	188.6	193.4	160.1	180.9	185.2	155.2	7.7	8.2	4.9	23.0	23.3	20.8
K88 医 療 保 健 業	207.2	207.4	207.0	194.2	193.3	194.8	13.0	14.1	12.2	25.4	25.7	25.3
生 産 勞 働 者												
D 鉱 業	197.8	199.0	182.0	175.3	175.4	174.1	22.5	23.6	7.9	23.7	23.7	23.6
F 製 造 業	208.3	215.9	187.3	181.7	182.3	180.2	26.6	33.6	7.1	24.0	24.3	23.3
20 食 料 品 製 造 業	197.8	207.1	177.2	180.2	183.0	173.9	17.6	24.1	3.3	23.8	24.6	22.1
22 紡 織 業	183.0	211.2	181.3	181.6	191.2	181.0	1.4	20.0	0.3	22.7	24.0	22.6
35 機 械 製 造 業	221.6	225.3	200.3	192.3	192.7	189.8	29.3	32.6	10.5	24.5	24.6	23.8
36 電機機械器具製造業	213.4	216.7	196.3	181.9	181.9	181.7	31.5	34.8	14.6	24.4	24.4	24.4
E 建 設 業	171.7	177.7	139.2	168.3	173.9	137.9	3.4	3.8	1.3	21.2	21.7	18.8
管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者												
D 鉱 業	205.6	209.6	188.8	185.8	186.7	181.9	19.8	22.9	6.9	26.0	26.0	26.2
F 製 造 業	206.6	210.0	191.9	185.3	185.9	182.6	21.3	24.1	9.3	24.6	24.8	24.2
20 食 料 品 製 造 業	204.9	208.2	191.7	188.9	190.6	182.4	16.0	17.8	9.3	24.8	25.0	24.2
22 紡 織 業	196.6	195.9	197.7	191.6	189.5	195.2	5.0	6.4	2.5	24.0	23.7	24.4
35 機 械 製 造 業	212.3	215.2	202.5	196.9	196.6	197.9	15.4	18.6	4.6	25.0	25.0	25.0
36 電機機械器具製造業	208.1	211.3	191.1	182.8	183.4	179.6	25.3	27.9	11.5	24.4	24.5	24.0
E 建 設 業	220.7	222.4	208.9	204.9	206.2	195.7	15.8	16.2	13.2	26.3	26.4	25.4

第3表 産業別常用労働者の種類及び性別月末及び増加減少推計労働者数並びに産業別臨時及び日雇労働者の月間推計人員（規模30人以上）

産 業 名	前月末労働者数			本月中の増加			本月中の減少			本月末労働者数			臨時及び日雇労働者の月間推計人員
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	
全 常 用 勞 働 者													
総 数	68,286	54,719	13,567	2,031	1,677	354	1,596	1,170	426	68,721	55,226	13,495	63,419
D 鉱 業	10,894	9,901	993	578	527	51	518	448	70	10,954	9,980	974	10,394
F 製 造 業	35,243	26,642	8,601	1,318	1,055	263	903	610	293	35,658	27,087	8,571	12,275
20 食 料 品 製 造 業	2,799	2,002	788	71	34	37	115	81	34	2,746	1,955	791	3,311
22 紡 織 業	2,666	330	2,336	7	0	7	195	20	175	2,478	310	2,168	1,073
35 機 械 製 造 業	2,151	1,790	361	7	6	1	13	12	1	2,145	1,784	361	421
36 電 機 機 械 器 具 製 造 業	18,860	15,791	3,069	979	822	157	360	326	34	19,479	16,287	3,192	69
G 卸 売 及 び 小 売 業	4,338	3,297	1,041	16	13	3	79	31	48	4,275	3,279	996	17,427
H 金 融 及 び 保 險 業	2,552	1,646	906	8	8	0	23	12	11	2,537	1,642	895	0
T 運 輸 通 信 及 び その他の公益事業	15,259	13,233	2,026	111	74	37	73	69	4	15,297	13,238	2,059	23,323
E 建 設 業	6,145	5,279	866	212	165	47	737	656	81	5,620	4,788	832	37,067
K88 医 療 保 健 業	2,409	968	1,441	25	7	18	44	20	24	2,390	955	1,435	40
生 産 勞 働 者													
D 鉱 業	9,296	8,608	688	535	498	37	470	408	62	9,361	8,698	663	—
F 製 造 業	25,306	18,562	6,744	1,087	863	224	727	482	245	25,666	18,943	6,723	—
30 食 料 品 製 造 業	2,052	1,421	631	61	27	34	99	70	29	2,014	1,378	636	—
22 紡 織 業	2,343	127	2,216	5	0	5	157	1	156	2,191	126	2,065	—
35 機 械 製 造 業	1,620	1,379	241	7	6	1	9	9	0	1,618	1,376	242	—
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	12,510	10,443	2,067	781	653	128	268	252	16	13,023	10,844	2,179	—
E 建 設 業	4,126	3,514	612	174	141	33	710	643	67	3,590	3,012	578	—
管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者													
D 鉱 業	1,598	1,293	305	43	29	14	48	40	8	1,593	1,282	311	—
F 製 造 業	9,937	8,080	1,857	230	192	38	176	128	48	9,991	8,144	1,847	—
20 食 料 品 製 造 業	738	581	157	9	7	2	16	11	5	731	577	154	—
22 紡 織 業	323	203	120	2	0	2	38	19	19	287	184	103	—
35 機 械 製 造 業	531	411	120	0	0	0	4	3	1	527	408	119	—
36 電 機 機 械 器 具 製 造 業	6,350	5,348	1,002	198	169	29	92	74	18	6,456	5,443	1,013	—
E 建 設 業	2,019	1,765	254	38	24	14	27	13	14	2,030	1,776	254	—

夏期農業基本調査結果の概要(その2)

(昭和31年8月1日調査)

調査企画課農林調査係

第9表

水 稻、陸 稻 作 付 面 積

(市 郡 別)

市 郡 別	水 稻		陸 稻	
	耕 作 者 数	作 付 面 積	耕 作 者 数	作 付 積 面
總 計	188,040	90,650,7319	139,432	21,299,5304
市 計	44,526	21,440,0021	31,774	4,215,7524
水 戸 市	3,461	1,060,7428	3,245	568,5727
日 立 市	2,919	821,8228	2,748	134,5119
土 浦 市	3,463	1,740,7224	2,126	156,1519
古 河 市	769	238,0309	893	175,9309
石 岡 市	2,435	1,205,3226	1,847	234,2413
下 館 市	4,261	3,427,7713	3,518	544,0021
結 城 市	3,122	1,380,7616	3,318	824,1500
竜ヶ崎 市	3,407	2,454,0424	1,958	190,5421
那 珂 湊 市	1,177	265,5109	291	130,0011
下 妻 市	3,137	1,602,3727	3,202	514,5226
水 海 道 市	3,975	1,978,7324	3,598	412,8306
常 陸 太 田 市	4,517	1,987,3109	1,352	571,300
勝 田 市	2,815	888,3308	2,291	313,2404
高 萩 市	1,781	823,6028	429	34,7925
北 茨 城 市	3,287	1,564,8618	958	420,903
郡 計	143,514	69,210,7228	106,658	17,083,7710
東 茨 城 郡	15,757	6,480,3007	15,059	2,606,5509
西 茨 城 郡	10,170	4,720,5529	8,946	1,104,0017
那 珂 郡	13,953	4,259,3420	12,857	1,834,5128
久 慈 郡	7,837	2,989,0205	4,437	206,1207
多 賀 郡	1,401	580,9403	684	41,9601
鹿 島 郡	12,151	5,437,0607	5,427	957,6721
行 方 郡	8,766	5,356,2704	2,341	350,4313
稻 敷 郡	14,428	10,975,9528	6,388	822,6504
新 治 郡	12,000	5,904,4815	6,903	766,5305
筑 波 郡	12,011	6,588,8719	9,921	1,957,8027
真 壁 郡	9,490	4,745,4607	9,014	1,411,4414
結 城 郡	6,603	2,848,4528	6,388	1,184,9701
猿 島 郡	13,472	4,443,8108	14,596	3,417,8218
北 相 馬 郡	5,475	3,880,1628	3,717	421,2625

夏作物の作付面積について

本県夏作物の総作付面積は 102,660町歩総耕地の (98.1%) で、うち作付面積 2,000町歩以上のものは、さつまいも 26,081町歩(25.4%)大豆13,999町歩(13.6%)らつかせいふ、416町歩(5.3%)あずき3,421町歩(3.3%)とうもろこし 4,406町歩(4.3%)さといも2,100町歩(2%)等である。なお本県特産たるたばこの作付面積は7,411町歩(7.2%)で昨年より僅かに増反されている。次表は種類別作付面積の比較を示す。

第9表 夏作物の作付面積 (単位町)

	あ わ		も ろ こ し		夏 そ ば		その他の雑穀	
	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積
昭和 31 年	戸 40,034	町 1,166,840	戸 11,476	町 250,280	戸 6,213	町 234,791	戸 15,860	町 383,181
〃 30 年	47,220	1,429,190	13,059	279,471	8,450	363,580	14,730	397,782
比較	△ 7,186	△ 262,342	△ 1,583	△ 28,991	△ 2,237	△ 128,782	1,130	△ 14,601
	と う も ろ こ し						秋そば作付予定地	
	乾燥種実用		未成熟食用		青刈飼料用			
	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積		
昭和 31 年	戸 62,953	町 3,043,852	戸 88,730	町 1,362,912	戸 5,319	町 335,111	戸 29,348	町 2,011,291
〃 30 年	62,245	3,035,692	90,841	1,439,470	6,159	336,800	—	—
比較	708	81,529	△ 2,111	△ 76,551	△ 840	△ 1,682	—	—
	大 豆						あ ず き	
	乾燥種実用		未成熟食用		青刈飼料用			
	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積		
昭和 31 年	戸 154,955	町 13,731,420	戸 6,639	町 268,220	戸 1,501	町 73,600	戸 146,011	町 3,421,572
〃 30 年	163,634	16,051,970	7,608	327,752	1,754	76,360	150,755	3,694,011
比較	△ 8,679	△ 2,320,550	△ 969	△ 59,532	△ 253	△ 2,760	△ 4,744	△ 272,431
	その他の豆類		さつまいも		な す		と ま と	
	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積
昭和 31 年	戸 68,009	町 1,126,251	戸 189,859	町 26,031,280	戸 163,137	町 1,437,401	戸 44,700	町 390,112
〃 30 年	71,626	1,186,610	194,266	26,192,881	165,709	1,433,482	37,645	405,940
比較	△ 3,817	△ 60,352	△ 4,407	△ 161,300	△ 2,572	391	7,055	△ 15,822
	き う り		し ろ う り		か ぼ ち や		す い か	
	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積
昭和 31 年	戸 113,494	町 958,471	戸 17,964	町 209,050	戸 65,484	町 985,242	戸 35,783	町 1,401,372
〃 30 年	121,915	996,332	—	—	73,863	1,101,630	33,468	1,226,431
比較	△ 8,421	△ 37,860	—	—	△ 8,379	△ 116,389	2,315	174,940

	ゆ う が お		その他の根菜類		さ と い も		夏 だ い こ ん	
	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積
昭和 31 年	戸 5,011	町 259,5017	戸 21,660	町 372,6205	戸 139,699	町 2,100,3105	戸 22,454	町 229,5513
〃 30 年	—	—	28,876	615,6529	150,177	2,267,0122	23,668	275,8505
比 較	—	—	△ 7,216	△ 243,0324	△ 10,478	△ 166,7017	△ 1,214	△ 46,2922
	こ ぼ う		に ん じ ん		れ ん こ ん		その他の根菜類	
	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積
昭和 31 年	戸 117,454	町 1,156,3800	戸 105,714	町 747,5318	戸 1,211	町 143,0315	戸 25,214	町 390,4325
〃 30 年	120,870	1,210,1024	106,174	739,8802	1,938	159,0608	28,460	386,7520
比 較	△ 3,416	△ 53,7224	△ 460	7,6516	△ 727	△ 16,0223	△ 3,246	9,6805
	ね ぎ		その他の葉茎菜類		ら つ か せ い		こ ま	
	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積
昭和 31 年	戸 118,614	町 1,132,3404	戸 22,145	町 299,1224	戸 79,697	町 5,415,8521	戸 77,324	町 1,256,8012
〃 30 年	116,035	1,062,1926	25,917	322,8129	74,699	4,072,5707	80,262	1,379,1101
比 較	2,579	70,1408	△ 3,772	△ 23,6905	4,998	1,343,1814	△ 2,938	△ 122,3019
	わ た		た ば こ		ラミー(ちよま)		薬 草 類	
	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積
昭和 31 年	戸 8,904	町 221,5711	戸 39,725	町 7,411,4603	戸 128	町 13,9210	戸 249	町 14,3124
〃 30 年	10,092	263,4319	39,926	7,394,5814	166	22,0424	291	18,2804
比 較	△ 1,188	△ 41,8608	△ 201	△ 16,8719	△ 38	△ 8,1214	△ 42	△ 3,9610
	その他の工芸作物		青 刈(とうもろこし) 飼料用(大豆を除く)		牧 草 類		苗 木 類	
	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積
昭和 31 年	戸 12,373	町 934,0617	戸 1,285	町 77,2303	戸 998	町 94,9610	戸 2,733	町 366,8918
〃 30 年	11,520	744,5923	896	56,5301	1,086	70,5821	3,794	402,5315
比 較	853	189,4624	389	20,7002	△ 88	△ 24,3719	△ 1,061	△ 35,6327
	その他の夏作物		△印は減を示す。					
	農家数	作付面積						
昭和 31 年	戸 33,576	町 1,505,8109	△印は減を示す。					
〃 30 年	52,346	1,772,5506						
比 較	△ 18,770	△ 266,7327	△印は減を示す。					

果樹種類別面積及び本数について

本県の果樹園の面積は、1,955町歩であり種類別にその集団栽培面積をみると、くりの1,457町歩(74.5%)なしの 317町歩(16.2%)かき55町歩(2.8%)もも47町歩(2.4%)ぶどう41町歩(2.1%)等である。又栽培散在本数は1,015,357本で、主なるものは、くり、317,337本(31.2%)かき195,078本(19.2%)梅163,434本(16.1%)渋かき163,244本(16.0%)が主である。その他は僅少である。次表は種類別面積及び本数を示す。

第10表 果樹種類別面積及び本数

な し				り ン ゴ			
結 果 樹		未 結 果 樹		結 果 樹		未 結 果 樹	
集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本
町: 2460314	本: 18,078	町: 707918	本: 15,187	町: 13824	本: 1,453	町: 44200	本: 4,114
甘 か き				渋 か き			
結 果 樹		未 結 果 樹		結 果 樹		未 結 果 樹	
集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本
町: 286309	本: 158,180	町: 76703	本: 36,898	町: 163725	本: 131,833	町: 21801	本: 31,411
も も				く り			
結 果 樹		未 結 果 樹		結 果 樹		未 結 果 樹	
集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本
町: 342308	本: 20,721	町: 134303	本: 9,921	町: 1,1789926	本: 248,543	町: 2778027	本: 68,794
梅				あ ん ず			
結 果 樹		未 結 果 樹		結 果 樹		未 結 果 樹	
集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本
町: 195229	本: 134,880	町: 26826	本: 28,554	町: 10300	本: 4,868	町: 1	本: 1,787
す も も				ビ ワ			
結 果 樹		未 結 果 樹		結 果 樹		未 結 果 樹	
集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本
町: 4128	本: 24,730	町: 1520	本: 6,336	町: 4810	本: 11,456	町: 0500	本: 3,629
ぶ ど う				温 州 み か ん			
結 果 樹		未 結 果 樹		結 果 樹		未 結 果 樹	
集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本
町: 310218	本: 18,082	町: 49115	本: 7,926	町: 14912	本: 4,390	町: 29800	本: 2,255
夏 み か ん				そ の 他 の み か ん 類			
結 果 樹		未 結 果 樹		結 果 樹		未 結 果 樹	
集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本
町: 10900	本: 3,178	町: 10600	本: 879	町: 17423	本: 4,857	町: 4100	本: 1,284
そ の 他 の 果 樹				注 表 中 集栽面……集団栽培面積を示す。 散 本……散在栽培本数を示す。 (おわり)			
結 果 樹		未 結 果 樹					
集 栽 面	散 本	集 栽 面	散 本				
町: 6318	本: 7,204	町: 6101	本: 3,929				

毎月人口世帯異

1. 世帯異動状況

	前月末	増 加				減 少				本月末
		転 入		その他	計	転 出		その他	計	
		県外から	県内から			県外へ	県内へ			
世 帯 数	385,080	247	399	(2,227) 366	(2,227) 1,012	247	310	(2,227) 81	(2,227) 638	385,454
前月との増減比	—	91.8	95.2	677.7	136.4	92.5	97.8	197.6	102.1	100.10

前月=100

2. 人口異動状況

	前月末	増 加				減 少				本月末		
		転 入		その他	計	転 出		その他	計			
		出生	県外から			県内から	死亡				県外へ	県内へ
男	1,010,254	1,578	1,756	1,566	(6,131) 265	(6,131) 5,165	666	1,842	1,707	(6,131) 213	(6,131) 4,428	1,010,991
女	1,066,790	1,460	1,216	1,654	(6,632) 44	(6,632) 4,374	610	1,460	1,648	(6,632) 154	(6,632) 3,872	1,067,292
計	2,077,044	3,038	2,972	3,220	(12,763) 309	(12,763) 9,539	1,276	3,302	3,355	(12,763) 367	(12,763) 8,300	2,078,283
前月との増減比	—	105.2	105.7	93.4	126.6	101.6	113.2	84.9	96.4	59.9	91.1	100.06

前月=100

3. 県外からの転入者内訳

従前の住居地	転入者数	割合
東京都	1,203	40.5%
埼玉県	95	3.2
神奈川県	173	5.8
千葉県	188	6.3
栃木県	142	4.8
群馬県	43	1.4
福島県	404	13.6
その他の府県	724	24.4
合 計	2,972	100

4. 県外転出者内訳

転出先の居住地	転出者数	割合
東京都	1,891	57.2%
埼玉県	111	3.4
神奈川県	310	9.4
千葉県	191	5.8
栃木県	87	2.6
群馬県	45	1.4
福島県	171	5.2
その他の府県	496	15.0
合 計	3,302	100

5. 市町村別世帯数及び人口(10月末現在)

市町村名	世帯数	人口	市町村名	世帯数	人口	市町村名	世帯数	人口
市部計	160,384	800,842	竜ヶ崎市	6,628	34,220	郡部計	225,070	1,277,441
水戸市	24,132	111,841	那珂湊市	6,865	33,400	東茨城郡	28,507	154,900
日立市	28,754	138,717	下妻市	5,590	32,113	常澄村	1,787	10,460
土浦市	15,868	72,368	水海道市	7,292	40,004	石崎村	1,084	6,173
古河市	8,276	40,863	常陸太田市	7,697	39,665	赤塚村	1,903	10,081
石岡市	7,264	36,314	勝田市	7,158	36,893	茨城町	4,459	25,525
下館市	9,637	52,860	高萩市	6,604	31,833	小川町	3,011	16,704
結城市	6,916	39,671	北茨城市	11,703	60,080	美野里村	2,704	15,404

()内は、町村合併による異動世帯数及び人口

動 調 査 結 果 速 報

(昭和31年10月分)

市町村名	世帯数	人口	市町村名	世帯数	人口	市町村名	世帯数	人口
内原村	2,264	13,415	鉢田町	5,290	29,925	筑波郡	17,191	97,819
飯富村	792	4,226	大洋村	1,877	10,915	谷田部町	3,958	22,206
常北町	2,402	12,712	大野村	1,817	11,375	伊奈村	2,149	12,761
桂村	1,917	9,789	鹿島町	2,792	16,443	谷和原村	2,012	11,751
御前山村	1,489	8,038	神栖村	2,861	17,207	豊里町	2,122	12,275
大洗町	4,695	22,373	波崎町	4,315	24,908	菅間村	389	2,407
西茨城郡	17,451	96,419	行方郡	13,063	75,608	筑波町	4,375	24,029
笠間町	4,896	26,133	麻生町	3,606	21,371	大穂町	2,186	12,390
友部町	3,442	19,219	牛堀町	1,238	7,237	眞壁郡	13,853	81,700
岩間町	2,537	14,505	潮来町	3,181	18,082	関城町	2,630	15,728
七会村	759	4,387	北浦村	2,183	13,049	明野町	3,088	18,714
稻田町	1,425	7,700	玉造町	2,855	15,869	大和村	1,424	23,547
岩瀬町	4,392	24,475	稲敷郡	20,737	115,437	眞壁町	4,218	8,700
那珂郡	20,425	112,104	江戸崎町	2,524	13,630	協和村	2,493	15,011
東海村	1,844	11,651	美浦村	1,723	9,921	結城郡	9,406	56,982
那珂町	5,906	31,574	阿見町	4,157	21,859	八千代村	4,222	26,314
国田村	655	3,635	荃崎村	1,076	6,510	千代川村	1,621	9,365
瓜連町	1,341	6,851	牛久町	2,920	15,786	石下町	3,563	21,303
大宮町	4,912	26,261	新利根村	1,827	10,051	猿島郡	20,467	126,502
山方町	2,622	14,145	大須賀村	629	3,697	総和村	3,279	20,913
美和村	1,560	9,118	桜川村	1,681	9,438	五霞村	1,513	9,955
緒川村	1,585	8,869	河内村	1,482	8,851	三和村	3,225	20,608
久慈郡	14,539	79,966	金江津村	903	5,224	猿島町	2,494	15,786
金砂郷村	2,836	15,869	東村	1,815	10,470	岩井町	5,904	35,521
水府村	2,338	12,392	新治郡	15,845	89,657	境町	4,052	23,719
里美村	1,463	8,341	出島村	3,519	19,857	北相馬郡	10,517	56,528
大子町	7,902	43,364	玉里村	974	5,571	守谷町	2,134	12,157
多賀郡	2,127	10,816	八郷町	5,743	33,225	取手町	4,292	21,474
十王町	2,127	10,816	千代田村	2,092	12,265	藤代町	2,333	13,068
鹿島郡	20,942	123,003	新治村	1,685	9,113	利根町	1,758	9,829
旭村	1,990	12,230	桜村	1,832	9,626			

新 市 町



ひたちおた 常陸太田市

1. 沿 革

本市は水戸から北へ汽車で約35分、久慈の清流を渡り、馬の背のような高台を中心に古くから発達した城下町である。ここは県の東北部に位し、東北部は阿武隈の連山および丘陵耕田を境にして日立へ、東南は久慈川を隔たてて那珂町、西北部は金砂郷、水府村にそれぞれ接している。昔この地方には、崇神天皇の御代に美濃國の長幡部族が移住してあしぎぬを織り、天智天皇の御代には、藤原鎌足の封戸があり、鶴ヶ池を築堤して灌漑用水を計つたが、坂上田村麿が征旅の時この地に立寄り、美田の多いところから太田の名が生れたそうである。その後藤原秀郷の四世孫通延がきて太田荒太夫と称し、その跡へ佐竹秀義がきて舞鶴城を築き、その後450年間北関東の豪族として兵馬の権を握り、水戸の江戸氏を討つて水戸城に入つたが佐竹氏が関ヶ原の合戦に石田三成に通じたかどで徳川家康に秋田へ移封されるまでその領地に属し、石岡とともに行政の中心地をなしていた。後水戸藩主徳川頼房の治下に今り、二代藩主光圀が元禄4年西山荘に隠棲10年の生活を送つて大日本史を編さんし、歴史上は勿論古くから穀倉地帯としても、藩の物資集散地としても非常に重要視されたところである。徳川時代の末期には、中山備前守が約90年間知行し、青竜城となつて明治維新を迎えた。昭和29年7月15日には、太田町と磯初、西小沢、幸久、佐竹、菅田、佐都の各村が合体して常陸太田市が誕生し、30年4月1日には世矢村、河内村の一部を編入して、今や面積111.38平方町、人口39,641人(男19,258、女20,383)、世帯数7,697を有する商業兼田園都市として再発達したのである。ここには県の支所をはじめ、土木事務所、保健所、職業安定所、職業補導所、土地改良事務所、農業改良相談所、税務署、建設省常陸工事事務所労働基準監督署、農林省調査統計事務所や食糧事務所の出張所、専売公社出張所、太田一、二高などがあつて、県北における行政、教育、産業、経済、交通上の中心地となり、今後の飛躍的發展が大いに期待されている。

2. 産 業

まず農業面を見ると、農家戸数4,691(全戸数の61%)農家人口26,913人(全人口68%) (男13,167、女13,746)、耕地面積3,200町(田2,022町、畑1,159町、果樹園15町、その他4町)を有し(昭和31年8月1日夏期調査)、特に県北における米どころといわれている。畑作物の特産物としてはさつまいも109町、たばこ149町、なし13町に達しているが、特に水府たばこは年産28万9,000kg、なしは世矢西小沢地区で年産9万メにのぼり、好適な土地、気象などの立地条件から見て今後の増産が期待される。市としても新農村建設計画を立てて土地改良事業を拡充強化するとともに、酪農経営や反当収入の多い作物、二毛作を奨励して効果的な方策を重点的にとりあげて農民生活面の向上を期している。また寒冷地帯へは、わさびやセロリー、水田地帯へは養魚なども普及させようとしている由。また大阪市場を独占している河合こぼう、久慈川、里川の若鮎も有名である。

次に畜産面を見ると、乳牛111頭、役牛1,050頭、馬572頭、豚1,025頭、めん羊57頭、山羊558頭、兎1,820頭、にわとり20,599羽にのぼり、(昭和31年2月1日冬期調査)畜産振興計画事業も次第にその成果を現してきた。また農機具の普及状況を見ると、電動機446台、石油発動機530台、動力耕耘機12台、脱穀機951台、足踏脱穀機3,436台、動力糶すり機356台、製粉機42台、精米麦機307台、噴霧機16台、人力噴霧機775台、動力撒粉機11台

製蓮機20台、製繩機127台、足踏製繩機2,430台、畜力カルチベーター37台、碎土機802台、すき1,338台畑用播種機89台に達し、特に糶加工などの農家の副業が発達している。(昭和30年8月1日夏期調査)

次に商工業面を見ると、まず法人および常用労働者を有する商店144、従業者数851名、常用労働者のいない商店455、従業者数926名であるが、そのうち菓子パン小売業、野菜果実小売業、酒および調味料品小売業が多い。(昭和31年7月1日商業調査)ここは昔から御商が発達しており、本県や栃木県方面における重要な地位を占めている。最近御問屋連合会が新に発足し、見本市やグループ使用などによつて大きな成果を収め、金融関係も産地金融、自治金融の自主的組織が活発な動きを示している。次に工業事業所は154、従業者数1,052名、年間製造出荷額は実に7億円を突破している。中でも真弓山の大理石、テラゾール製造業や製材、木製品家具製造業が大部分を占めている。(昭和30年12月31日工業調査)またきびの穂がらを利用した座敷簞は年産10万本にのぼり、東北、東京方面へ出荷して好評を博している。

3. 教育文化

ここには高校2、中学校9、小学校12、幼稚園1、各種学校5あつて、高校生徒2,614名(男1,517、女1,097)中学生徒2,778名(男1,410、女1,368)、小学児童5,426名(男2,816、女2,610)園児216名(男108、女106)各種学校生徒女441名を有し、県北地方における教育上の中心地となつている。また公民館分館9があつて農閑期を利用した青年学級を開催したり、青年会の「青報」1,000部を毎月発行して、「市政だより」の8,200部の毎月各戸配付などとともに社会教育の普及と市政の滲透を計つている。婦人会の活動も活発で、特に瑞電、落合部落の新生活運動と生活改善は非常に進んでおり、料理講習、共同作業、読書サークル、衣服改良、婦人休養日の励行、因襲打破などを着実に実行して各自の創意工夫による実践に努めている。またここには市営住宅50戸、アパート1県営住宅14戸、建売住宅30戸があり、今後は日立～太田間の新道建設と相まつて住宅整備による他都市の消費人口の吸収を計つて行こうとしている。ここは歴史的にも古くから全国に知られ、名所旧跡も数多くある。中でも徳川光圀が隠棲して大日本史を編さんした西山荘や水戸徳川家累代の墓所や朱舜水の墓のある瑞竜山、水戸徳川家の菩提寺である日蓮宗久昌寺、水戸八景の一などがある。太田の落雁、太田地方の総鎮守として応永元年鎌倉から分靈した若宮入幡宮、最近修築成つて落雁式を行つた成田山がある。また花山天皇の御代寛和元年真言宗坂東22番の札所として開かれた佐竹寺は、特別保護建造物となり国宝として珍重されている。



(な し 園)

村の横顔

4. 財政 昭和31年一般会計歳入歳出予算 (単位円)

歳入	市税	地方交付税	公企業及財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	市債	合計			
入	59,428,636	43,300,000	95,000	3,404,400	15,039,368	1,589,747	100	390,000	50,000	5,371,636	15,850,000	144,518,887			
歳出	議会費	市役所費	消防費	土木費	教育費	社会及労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
出	3,963,401	45,593,814	8,988,850	10,932,236	20,095,784	19,820,164	9,813,269	11,059,983	3,312,508	477,180	744,500	2,293,937	6,623,261	800,000	144,518,887

総和村

1. 沿革

ここは水戸から汽車で2時間、小山、古河を経て、さらにバスで15分猿島郡の西端に位し、平坦な田畑に恵まれた純農村地帯で西北部は、古河市と栃木県に、東部は三和村に接し、南部は五霞村と利根川に面している。この地方の大部分は昔足利時代古河公方の領地に属し、栗田氏や土井氏、久世氏、下河辺氏などによって治められたが、徳川時代に入つてからは幕府の直轄地として代官領になつたところも少なくない。明治維新後は、一時印旛県や古河県、千葉県などに入つたが、明治7年に茨城県に編入された。昭和30年8月16日には、勝鹿、岡郷、桜井、香取の4カ村が合併して、各地域住民の融和を計るためにその名もふさわしく総和村が誕生したのである。ここは面積54.03平方町、人口20,894人(男10,155、女10,739)、世帯数3,277(昭和31年12月1日村調査)にふくれ上つた大農村であるが、今では陸上自衛隊や日赤猿島病院などもあり、今後東北本線の電化や国道のは装化によつてますます発展して行くものと思われ、今や新役場を中心に全村民一致協力し明るく住みよい郷土を目ざして新しい村作りに着実な足取りを示している。

2. 産業

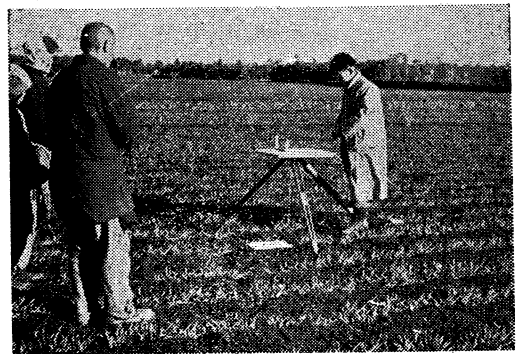
まず農業面を見ると、農家戸数2,619、農家人口18,024名(男8,718、女9,306)、耕地面積3,003町(田821町、畑1,976町、果樹園5町、茶園59町、菜園97町、その他45町)を有しているが、(昭和31年8月1日夏期調査)特に蔬菜類やさつまいも、猿島茶、桑苗な生産が非常に多い。すなわちさつまいも330町で230万メ、かぼちや200町、白菜、大根200町にのぼり、また桑苗100町で生産200万本、たばこは37町で8,200メの生産をそれぞれあげている。本県特産物の一である猿島茶は年産30,000メに達し蔬菜類とともに京浜方面へ出荷されている。畜産面を見ると乳牛89頭、役牛1,102頭、馬255頭、めん羊16頭、山羊140頭、豚116頭、にわとり9,152羽、を有しており(昭和31年2月1日冬期調査)、牛乳、山羊乳2,000石、鶏卵15万個、仔豚2,000頭を京浜方面へ出荷している。特に酪農振興協議会が誕生して乳牛は31年末までに180頭に増加し、将来は牛乳処理場を建設する計画の由。さらに村としては酪農、養豚、養鶏組合の育成に努めて畜産振興策を重点的にとりあげるとともに、蔬菜類の奨励と共同出荷組合の統合強化を計り、新農村建設計画の具体的立案を急いでいる。また農機具の普及状況は、電動機844台、石油発動機924台、動力脱穀機1,658台、足踏脱穀機548台、動力すり機488台、動力製粉機221台、動力精米機628台、人力噴霧機14台、動力噴霧機1,118台、動力製糞機216台、製煉機14台、踏製糞機1,261台、動力用カルチペー

ター289台、水田中耕除草機11台、砕土機15台、エンジンシレージャッター11台、人力いも糠飼料機23台、畑用播種機307台、畜力すき691台、畑用播種機307台に達し、特に土地の交換分合事業の推進や農事研究グループの育成と相まって農村電化や畜力利用の普及がめざましい(昭和30年8月1日夏期調査)。なお養蚕農家は、164戸で年間収繭量8,684メをあげている。

次に商工業面を見ると、まず商業では法人および常用労働者を有する商店4、従業者数18名、月間販売額435万円、常用労働者のいない商店170、従業者数267名、月間販売額977万円であるが、大部分は荒物、雑貨、洋品、食品小売業である。また工業面で、事業所数30、従業者数67名、製造出荷額年間3,162万円に過ぎず、澱粉工場と酸素注入工場が目立っているだけである。

3. 教育文化

ここには小学校4、中学校4があつて、児童数2,866名(男1,484、女1,382)中学生徒数1,448名(男745、女703)を有しているが、合併と同時に施設の拡充強化に努め、全校舎の増、改築を完了した。また青年、婦人団体の活動も非常に活発で、特に柳橋地区の生活改善事業は、優秀な実績を収めており、他の模範とされている。村では最近新式の映写機を購入して各部落を巡回し、座談会や慰安会を開き、村民とのつながりを深くしようとしている。この村は消防分団が26あつて消防機具一切を可搬式ポンプに切换え、防災、防犯モデル村として再三表彰されている。またここには聖武天皇の御代に僧行基によつて開かれた水海の実相寺をはじめ、多くの寺院があり、江戸時代の学者として有名な熊沢蕃山の墓が大堤延延寺にある。また地区によつては磨製、打製の土器、石器が発見された古墳もあつて学界からも注目されている。



(交換分合の測量)

昭和31年一般会計歳入歳出予算 (単位円)

歳入	村税	地方交付税	公企業及財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰越金	雑収入	合計					
入	26,810,010	13,678,000	54,000	179,600	522,100	421,880	2,000	4,716,209	60,100	46,443,899					
歳出	議会費	役場費	警察消防費	土木費	教育費	社会及労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
出	1,421,620	14,460,195	1,591,860	3,942,000	12,892,596	535,257	1,009,770	3,388,669	163,880	174,300	411,400	736,500	5,014,358	701,494	46,443,899

昭和30年工業統計調査結果速報 (その4)

4. 市郡別統計表 (続)

商工調査係

産業、市郡別	従業者4人以上の事業所				従業者3人以下の事業所		
	事業所数	従業者数	製造品出荷額	附加価値額	事業所数	従業者数	製造品出荷額
			千円	千円			千円
窯業及び土石製品製造業	200	4,036	3,182,268	1,642,513	321	800	133,862
水戸市	23	228	79,115	35,687	13	34	6,110
日立市	16	1,021	2,071,464	1,123,947	11	29	6,299
土古市	7	172	146,763	82,374	12	28	3,621
石岡市	—	—	—	—	1	x	x
下館市	7	39	9,101	4,389	8	17	1,905
下結市	5	312	283,624	67,004	4	11	4,350
下竜市	4	30	3,542	1,999	7	16	1,865
下妻市	1	x	x	x	3	9	1,430
下妻市	1	x	x	x	2	x	x
下妻市	—	—	—	—	4	11	1,147
水道市	2	x	x	x	15	36	5,237
常陸太田市	8	120	33,517	18,935	13	34	6,192
勝高市	2	x	x	x	6	14	2,133
勝高市	4	98	25,502	15,831	5	14	2,226
勝高市	5	27	5,494	1,990	18	43	7,194
西茨城郡	35	1,073	280,000	151,583	17	45	7,469
西那珂郡	10	55	11,611	5,521	21	43	6,950
西那珂郡	5	28	6,100	3,155	6	17	1,780
西那珂郡	5	44	10,204	6,338	8	21	4,322
西那珂郡	3	25	6,470	1,885	12	33	6,541
行方郡	5	27	8,232	5,673	15	40	7,295
行方郡	1	x	x	x	8	18	4,270
行方郡	3	27	7,196	2,011	22	58	13,014
行方郡	8	80	31,981	12,501	11	25	5,242
行方郡	36	549	123,827	74,051	47	121	15,662
結城郡	2	x	x	x	26	60	6,842
結城郡	1	x	x	x	1	x	x
結城郡	1	x	x	x	5	13	4,103
鉄鋼業	14	1,007	947,840	300,414	3	6	5,290
水戸市	4	35	15,064	4,069	1	x	x
日立市	3	33	10,129	5,467	—	—	—
土古市	1	x	x	x	—	—	—
土古市	1	x	x	x	—	—	—
土古市	1	x	x	x	1	x	x
那珂市	1	x	x	x	—	—	—
那珂市	1	x	x	x	—	—	—
那珂市	2	x	x	x	—	—	—
非鉄金属製造業	11	3,919	14,963,721	2,283,145	事業所数1のため鉄鋼業に含めた		
日立市	4	3,821	14,900,276	2,265,389	—	—	—
日立市	3	34	29,689	10,013	—	—	—
日立市	1	x	x	x	—	—	—
日立市	1	x	x	x	—	—	—
日立市	1	x	x	x	1	x	x
西茨城郡	1	x	x	x	—	—	—

産業、市郡別	従業者4人以上の事業所				従業者3人以下の事業所		
	事業所数	従業者数	製造品出荷額	附加価値額	事業所数	従業者数	製造品出荷額
			千円	千円			千円
電器 器具 製造 被業	103	10,265	11,201,956	4,728,239	14	34	6,282
水戸市	6	199	57,485	25,601	1	x	x
立川市	75	8,980	10,620,609	4,507,663	4	9	1,022
土浦市	1	x	x	x	3	7	2,312
古河市	4	111	63,746	24,920	1	x	x
石岡市	1	x	x	x	—	—	—
下結電那下	4	610	306,253	107,205	3	8	1,300
館城 崎湊	2	x	x	x	—	—	—
ヶ珂 妻	—	—	—	—	1	x	x
水常勝高	1	x	x	x	—	—	—
海陸 太田 萩	2	x	x	x	—	—	—
勝高	1	x	x	x	—	—	—
東西那久多	3	73	5,203	3,030	—	—	—
茨城 城	—	—	—	—	—	—	—
東西那久多	1	x	x	x	1	x	x
鹿行稻新筑	—	—	—	—	—	—	—
真結猿北	—	—	—	—	—	—	—
相馬 壁城島	1	x	x	x	—	—	—
北相馬 製造 被業	31	1,201	1,687,924	1,089,883	78	130	34,213
水戸市	2	x	x	x	4	8	2,181
立川市	5	198	64,249	34,901	2	x	x
土浦市	1	x	x	x	7	17	3,041
古河市	1	x	x	x	3	5	788
石岡市	1	x	x	x	—	—	—
下結電那下	—	—	—	—	1	x	x
館城 崎湊	2	x	x	x	—	—	—
ヶ珂 妻	6	202	436,650	291,414	2	x	x
水常勝高	3	157	202,564	173,278	4	7	3,334
海陸 太田 萩	—	—	—	—	—	—	—
勝高	2	x	x	x	—	—	—
東西那久多	2	x	x	x	—	—	—
茨城 城	2	x	x	x	9	12	1,826
東西那久多	—	—	—	—	1	x	x
鹿行稻新筑	—	—	—	—	1	x	x
真結猿北	—	—	—	—	4	9	12,287
相馬 壁城島	1	x	x	x	19	29	2,872
北相馬 製造 被業	1	x	x	x	14	17	3,611
水戸市	—	—	—	—	4	8	1,886
立川市	—	—	—	—	1	x	x
土浦市	1	x	x	x	—	—	—
古河市	2	x	x	x	1	x	x
石岡市	—	—	—	—	—	—	—

産業市郡別	従業者4人以上の事業所				従業者3人以下の事業所		
	事業所数	従業者数	製造品出荷額	附加価値額	事業所数	従業者数	製造品出荷額
			千円	千円			千円
精器	28	534	177,824	85,190	11	27	6,523
器具	3	27	16,243	10,241	I	x	x
織造	6	133	32,935	19,499	—	—	—
水日土古石	2	x	x	x	4	11	3,652
下結電那下	I	x	x	x	—	—	—
水常勝高	3	29	5,027	2,103	I	x	x
東	—	—	—	—	—	—	—
西	I	x	x	x	—	—	—
那	—	—	—	—	—	—	—
久	I	x	x	x	—	—	—
多	—	—	—	—	—	—	—
鹿行稻新筑	—	—	—	—	—	—	—
真結猿北	—	—	—	—	—	—	—
相馬	3	38	11,470	6,051	—	—	—
その他の製造業	96	1,468	547,023	203,681	198	423	76,348
水日土古石	13	169	64,204	24,985	14	33	8,172
下結電那下	8	137	14,361	9,736	2	x	x
水常勝高	8	128	36,322	18,303	15	35	7,352
東	11	162	97,350	29,852	17	37	16,033
西	5	54	19,903	7,081	7	15	1,434
那	3	75	16,222	4,123	13	20	2,854
久	I	x	x	x	6	12	1,767
多	3	117	72,416	18,523	4	7	567
鹿行稻新筑	—	—	—	—	—	—	—
真結猿北	3	43	6,439	2,888	2	x	x
相馬	I	x	x	x	2	x	x
水日土古石	2	x	x	x	7	15	2,710
下結電那下	I	x	x	x	—	—	—
水常勝高	—	—	—	—	4	11	1,111
東	2	x	x	x	14	28	5,192
西	7	120	36,264	15,826	11	20	2,546
那	2	x	x	x	9	20	2,400
久	—	—	—	—	I	x	x
多	—	—	—	—	4	11	1,681
鹿行稻新筑	I	x	x	x	6	11	440
真結猿北	3	18	5,331	2,475	7	17	2,274
相馬	4	49	9,987	4,757	2	x	x
水日土古石	I	x	x	x	7	15	3,115
下結電那下	7	90	50,883	17,382	17	36	5,136
水常勝高	4	37	6,859	4,905	10	26	3,400
東	I	x	x	x	2	x	x
西	2	x	x	x	14	26	3,670
那	—	—	—	—	I	x	x
久	—	—	—	—	—	—	—
多	—	—	—	—	—	—	—
鹿行稻新筑	—	—	—	—	—	—	—
真結猿北	—	—	—	—	—	—	—
相馬	3	45	25,378	8,294	—	—	—

9月における農村物価賃金の動き

今月の農村物価は全体的に見ればやや値上りぎみである。

農村生産物においては約 0.6%の微落し農家購入価格は反騰の傾向がみられ約2.1%の上昇となった。

更に前年同月の物価水準と比べると生産物は穀類の一部及び豆類の一部値下りにより約 1.9%の低下を示し購入価格においては家畜類の一部及び農機具類の値下りによって約1.7%の微落となっている。

今月の農林生産の特徴的なものはないが目立つものは蔬菜類の一部急騰と藪類、畜産物類の低落等である。

農家購入品の購入価格には、目立つた動きはみられないが肥料類の一部家畜類の一部微落と家畜類の役牛、資材類は鉄材値上りの影響による全般的な上昇等が主な価格の動きでありその他の各品目についてはあまり変動は見られなかった。

茨城県農村物価賃金調査結果

(昭和31年9月15日現在)

(1) 農家生産物の販売価格

調査品目		単位	平均価格	前月との比較	前月を100とすれば	調査品目		単位	平均価格	前月との比較	前月を100とすれば	
穀類	糠米	1升	103	—	100	葉及び農産加工品類	稲わら	1ノ	11	—	100	
	糯	ノ	110	—	100		甘藷生切干	ノ	—	—	—	
	大麦	ノ	59	2	103		蒸	ノ	—	—	—	
	小麦	ノ	48	2	104		縄	ノ	50	—	100	
	裸	ノ	58	△ 2	97		吠	枚	46	2	106	
	小麦粉	1ノ	189	△ 1	100		苳	ノ	67	2	103	
雑穀類	とうもろこし	1升	53	—	100	林産物類	薪	1束	41	3	108	
	あわ	ノ	74	△ 1	100		木炭	1俵	411	15	104	
	ひえぎ	ノ	—	—	—		蔬菜類	きうり	1ノ	52	19	157
	もろこし	ノ	58	△ 2	97			しろり	ノ	64	27	173
	そば粉	1ノ	230	4	101			かぼちや	ノ	34	△ 6	85
大豆	1升	77	2	102	すいか	ノ		46	5	112		
あづき	ノ	110	4	103	なす	ノ		47	17	158		
豆類	えんどう	ノ	108	△ 3	97	とまと	ノ	69	18	135		
	そら豆	ノ	65	2	103	だいこん	ノ	32	6	134		
	いんげん豆	ノ	107	△ 3	97	かぶ	ノ	33	△ 1	97		
	落花生	ノ	150	△ 24	83	にんじん	ノ	74	8	112		
	胡麻	ノ	118	7	106	ごぼう	ノ	81	16	125		
なたね	ノ	68	△ 4	94	さといも	ノ	85	△ 33	72			
藪類	甘馬鈴	1ノ	43	△ 12	78	ねぎ	ノ	63	11	121		
	藪薯	ノ	42	△ 2	95	たまねぎ	ノ	54	6	113		
蚕繭	繭	ノ	1,506	25	101	キヤツツ	ノ	56	7	114		
	畜生物類	肉牛	生体 1ノ	560	△ 68	89	結球白菜	ノ	—	—	—	
		豚	ノ	572	△ 66	90	非	ノ	—	—	—	
		鶏	ノ	515	△ 45	90	ほうれん草	ノ	78	8	111	
		牛乳	1升	55	—	100						
鶏卵	1個	12	1	109								

(2) 農家購入品の購入価格

調査品目	単位	平均価格	前月との 比	前月を 100と すれば	調査品目	単位	平均価格	前月との 比	前月を 100と すれば			
肥料類	硫酸安	1ノ	円 85	円 1	100	農薬類	石灰黄合剤	18立g	円 658	円 49	108	
	硝酸安	ノ	109	△ 1	99		DDT	500	186	△ 1	99	
	石灰窒素	ノ	87	—	100		ウスブルン	ノ	429	18	107	
	過石	ノ	55	△ 1	98		2-4-D	50g	120	△ 7	94	
	硫酸加里	ノ	112	2	101		生石灰	4ノ	327	△ 1	100	
	塩化加里	ノ	90	1	101		農具類	くわ	1丁	783	74	110
	菜種粕	ノ	113	△ 1	99			かま	ノ	122	7	106
	魚粕	ノ	192	3	102			すき	1台	4,309	221	105
	消石灰	ノ	16	△ 5	76			噴霧器	ノ	3,514	△ 315	92
	銅料類	ふすま	ノ	92	1			101	水田除草機	ノ	758	△ 19
米糠		ノ	79	1	101	人力脱穀機		ノ	6,806	362	105	
麦		ノ	65	△ 1	98	動力		ノ	19,320	1,163	106	
家畜類	役牛	1頭	37,917	2,791	108	電動機		ノ	15,708	△ 1,607	90	
	馬	ノ	32,688	△ 29	91	織材類		釘	100	38	7	122
	仔豚	ノ	3,067	181	106			針金	ノ	20	△ 19	51
	仔兔	1匹	58	△ 3	95		トタン	1枚	374	34	110	
	初生雛	1羽	82	3	104		角材	1石	3,761	46	101	
農薬類	石油	1升g	44	△ 1	98		板	1坪	465	31	107	
	硫酸銅	500	97	11	113	農用被服類	紺木綿	1反	571	81	116	
	硫酸ニコチン	ノ	775	40	105		作業衣上下	1着	755	△ 42	95	
	除虫菊粉末	ノ	219	△ 9	96		地下足袋	1足	265	4	101	
	砒酸鉛	ノ	134	7	106		ゴム長靴	ノ	617	△ 18	96	

(3) 農村賃金及び農業用料金

農業労働賃 (金臨時雇1日当)					山林労働賃金(男1日当)	
賄なし	一食付	二食付	三食付	四食付	伐木	木材運搬
男 } 円 315	円 272	円 253	—	—	円 340	円 416
女 } 262	226	210	—	—	—	—
農業賃料				本月の主なる農作業		
秣摺賃	牛馬耕賃	牛賃借料	馬賃借料	稲刈		
玄米一俵当	荒起整地 1反	一日当	一日当			
51円	500円	550円	571円			

10月における農村物価賃金の動き

本月の農村物価は前月に比し農林生産物の販売価格は約1.9%微騰し、農家購入の購入価格も約2.4%と上昇を示した。

前年同月の農村物価水準とくらべると農林生産物の販売価格は約2.1%の低落となり購入価格では2.0%と反騰となつた、これは家畜類及び農機具の値上りによるものである。

今月の農林生産物の販売価格には特徴的動きは見られないが特に目立つ動きを見たものは蔬菜類及びあづきの大巾な値上り等である。その他の各品目においては全般的に値下りである。

農家購入品の購入価格については目立つものはないが家畜類及び農機具類が上昇しその他の品目は全体的に微見落をた。

茨城県農村物価賃金調査結果

(昭和31年10月15日現在)

(1)農家生産物の販売価格

調査品目						調査品目					
調査品目	単位	平均価格	前月との比較	前月を100とすれば	調査品目	単位	平均価格	前月との比較	前月を100とすれば		
穀類	粳米	1升	103	—	100	薬及農産加工品類	稻わら	1ノ	11	—	100
	糯米	ノ	111	△ 1	100		甘藷生切干	ノ	—	—	—
	大麦	ノ	57	△ 2	96		〃 蒸 〃	ノ	—	—	—
	小麦	ノ	47	△ 1	97		〃 繩	ノ	46	△ 4	92
	裸麦	ノ	54	△ 4	93		叭	枚	46	—	100
	小麦粉	1ノ	179	△ 10	94		叭 苳	ノ	67	—	100
雑穀類	とうもろこし	1升	43	△ 10	81	林産物類	薪	束	39	△ 2	95
	あわび	ノ	66	△ 8	89		木炭	貫	426	15	104
	ひきま	ノ	—	—	—	蔬菜類	きうり	貫	74	22	142
	もろこし	ノ	54	△ 4	93		しろり	ノ	—	—	—
	そば粉	1ノ	230	—	100		かぼちや	ノ	40	6	117
大豆	1升	82	5	106	すいか		ノ	—	—	—	
あづき	ノ	126	16	114	なす		ノ	64	17	136	
豆類	えんどう	ノ	102	△ 6	94	とまと	ノ	—	—	—	
	そら豆	ノ	61	△ 4	94	だいこん	ノ	30	△ 2	94	
	いんげん豆	ノ	103	△ 4	96	かぶ	ノ	44	11	133	
	落花生	ノ	150	—	100	にんじん	ノ	73	△ 1	98	
胡麻	ノ	123	5	104	ごぼう	ノ	82	1	101		
なたね	ノ	70	2	102	さといも	ノ	75	10	88		
薯類	甘馬鈴	1ノ	29	△ 14	67	ねぎ	ノ	63	—	100	
	薯薯	ノ	49	4	109	たまねぎ	ノ	60	6	111	
蚕繭	ノ	1,592	△ 86	106	キヤベツ	ノ	60	6	108		
畜産物類	肉牛	生体 1ノ	545	△ 15	97	結球白菜	ノ	65	—	—	
	〃 豚	ノ	581	9	102	非結球白菜	ノ	38	—	—	
	肉鶏	ノ	523	8	102	ほうれん草	ノ	85	7	108	
	牛乳	1升	52	△ 3	94						
	鶏卵	1ケ	12	—	100						

(2) 農家購入品の購入価格

調査品目	単位	平均価格	前月との比較	前月を100とすれば	調査品目	単位	平均価格	前月との比較	前月を100とすれば			
肥料類	硫酸安	1斗	85	—	100	農具類	石硫黄合剤	18立g	653	△ 5	99	
	硝酸安	〃	112	3	103		DDT	500	165	△ 21	88	
	石灰窒素	〃	84	△ 3	96		ウスブルン	〃	428	△ 1	100	
	過石	〃	55	—	100		2-4-D	50g	118	△ 2	98	
	硫酸加里	〃	110	△ 2	98		生石灰	4斗	320	△ 7	98	
	塩化加里	〃	86	△ 4	96		農機具	くわ	1丁	772	△ 11	99
	菜種粕	〃	117	4	104			かま	〃	122	—	100
	魚粕	〃	187	△ 5	97			すき	1台	4,412	103	162
消石灰	〃	16	—	100	噴霧機	〃		3,845	331	109		
飼料類	ふすま	〃	92	—	100	水田除草機		〃	782	24	103	
	米糠	〃	82	3	103	人力脱穀機		〃	5,975	△ 831	88	
	麦糠	〃	67	2	103	動力		〃	20,057	739	104	
家畜類	役牛	1頭	39,024	1,107	103	電動機	〃	16,843	1,135	107		
	役馬	〃	33,385	697	102	資材類	釘	100	35	△ 3	92	
	仔豚	〃	3,145	78	102		針金	〃	42	2	95	
	仔兎	〃	65	7	112		トタン	1枚	381	—	102	
	初生雛	1羽	79	△ 3	96		角材	1石	3,758	△ 3	100	
農菜類	石油	1升g	43	△ 1	98		板	1坪	457	△ 8	98	
	硫酸銅	500	82	△ 15	85	農用被服類	紺木綿	1反	442	△ 29	77	
	硫酸ニコチン	〃	737	△ 38	95		作業衣上下	1着	797	42	106	
	除虫菊粉末	〃	232	13	106		地下足袋	1足	263	△ 7	97	
	硫酸鉛	〃	132	△ 2	98		ゴム長靴	〃	626	9	101	

(3) 農村賃金及び農業用料金

農業労働賃金 (臨時雇1日当)					山林労働賃金(男1日)	
賄なし	一食付	二食付	三食付	四食付	伐木	木材運搬
男	円 359	円 310	円 285	円 276	円 370	円 414
女	305	260	236	226	—	—
農業賃料				本月の主な農作業		
糶摺賃	牛馬耕賃	牛賃借料	馬賃借料	畑作、除草		
玄米一俵当	荒起整地	一日当	一日当			
47円	536円	495円	531円			

生産動態調査

織維部門

(昭和31年11月度分)

(調査企画課商工調査係)

概況

織物

絹織物の生産は本月度も前月度同様比較的好調で約3%の増加であった。

絹織物は前月度より約9%の減産となっている。引渡高は約58%減少で需要は大巾に減じ、春物生産まで閉散である。

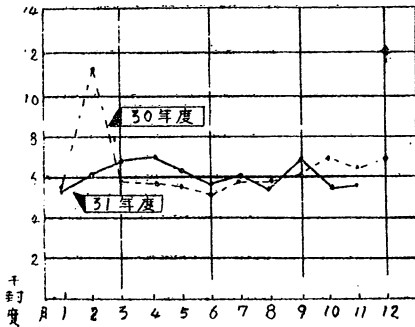
メリヤス製品

メリヤス製品の生産は前月同様で肌着の生産高、引渡高が増加している。

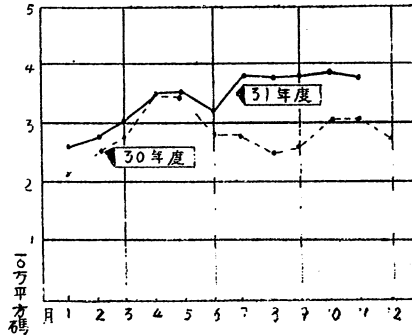
縫製品

作業服、制服、子供服、既成服の生産高、引渡高の増加が目立っている。

特紡和紡糸生産推移



織物生産推移



(1) 対象工場数

業種	特紡和紡糸	絹織物	絹織物	メリヤス製品	雑織維製品	縫製品	製綿
対象	7	17	314	10	3	18	9
操業	7	17	312	10	3	13	9
休止	—	—	2	—	—	5	—

(2) 生産および出荷状況

部門別	品目別	単位	生産高		引渡高		月度末在庫高	
			当月度	前月100対比	当月度	前月100対比	当月度	前月100対比
紡	計	封度	59,696	103	59,699	103	4,346	100
	落綿糸	//	10,000	92	10,000	90	200	100
	特紡糸	//	41,400	106	41,400	106	1,725	100
績	和紡糸	//	8,296	103	8,296	104	2,421	100
	織物計	平方碼	353,245	92	327,051	93	193,873	115
	綿織物	//	186,885	113	184,584	116	103,811	103
織	絹織物	//	50,257	93	24,251	40	47,610	220
	絹紡織物	//	3,610	74	3,473	66	4,405	103
	和紡織物	//	79,668	75	78,676	75	26,066	103
物	特紡織物	//	—	—	—	—	—	—
	スフ織物	//	—	—	—	—	—	—
	人絹織物	//	—	—	—	—	—	—
メリヤス製品	合成纖維織物	//	32,825	91	36,067	149	11,981	79
	メリヤス生地	度封	13,842	187	10,113	723	8,447	179
	製品計	打	9,124	86	10,171	67	5,723	101
縫製品	肌着	//	2,900	103	2,930	107	675	96
	外衣	//	133	94	133	94	—	—
	手袋	//	4,898	81	5,650	52	2,520	116
雑織維製品	靴下	//	1,193	86	1,458	107	2,528	91
	計	封度	2,278	100	3,176	104	2,549	103
	漁網	//	628	123	826	93	1,033	96
織製	漁具糸	//	1,650	93	2,350	109	1,516	107
	学校服	着	1,525	50	1,404	41	1,104	112
	作業服	//	3,577	127	2,574	93	1,247	511
品	制服	//	691	203	691	203	—	—
	乳児および子供服	//	1,273	199	1,236	255	824	104
	既成服	//	6,989	133	7,092	178	934	90
綿	中衣・肌衣	点	10,700	42	10,295	50	32,159	101
	綿綿	封度	313,490	97	356,710	105	123,594	78

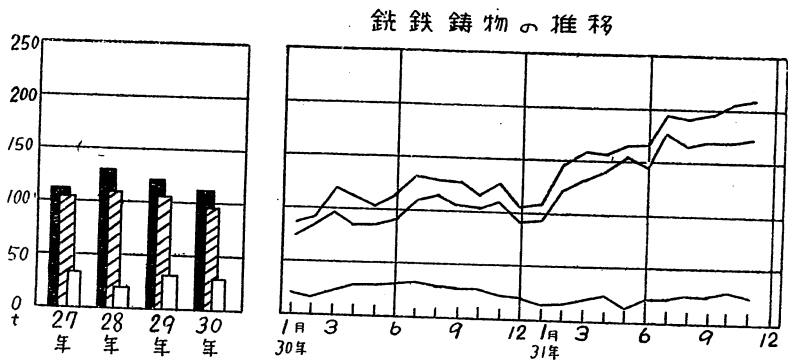
★本表は、生産動態統計調査規則に定められている繊維工場を調査対象としたものであるが、特紡糸、和紡糸以外の紡績工場および抽出調査工場は含まれていない。

機 械 部 門

(昭和31年11月度分)

概 況

銑鉄鑄物の生産は前月に比べ総合で104%で今年最高を記録し、出荷も102%で7月に次いで多く在庫は98%と減少した、これを品目別にみると産業機械器具用94%、鉄道および車輛用129%、電気通信機器用139%、日用品115%である。



銅合金鑄物の生産は総合で106%と増加した。

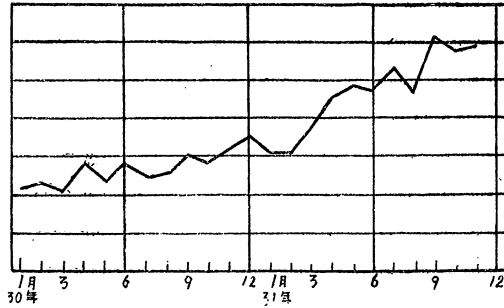
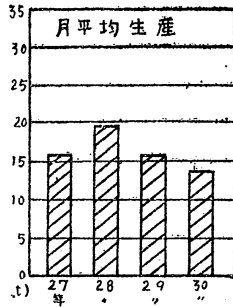
品目別にみると産業機械器具用137%、電気機械器具用108%、軸受メタル91%、バルブコック104%である。

軽合金鑄物の生産は総合で181%と増加している。

銑 鉄 鑄 物

区 分 用途別	生 産		出 荷		自己消費	月末在庫	対象工場数 12
	重量 kg	金 額 千円	重量 kg	金 額 千円	重量 kg	重量 kg	
総 数	211,494	15,660	172,309	13,692	39,303	25,275	生産前月対比
産業機械器具用	117,518	8,393	98,285	7,757	10,931	9,270	104
雑機械器具用	—	—	—	—	—	—	出荷前月対比
鉄道および車輛用	14,419	1,254	14,419	1,254	—	—	102
電気および通信機器用	47,869	3,783	47,869	3,783	—	—	在庫前月対比
農水産機器用	—	—	—	—	—	—	98
港湾および船舶機器用	—	—	—	—	—	—	
雑機械器具用	15,954	837	5,654	447	10,300	—	—
日用品	9,382	774	4,930	364	2,872	16,455	
鑄型および鑄型定盤	15,200	532	—	—	15,200	—	
その他	1,152	87	1,152	87	—	—	—

銅合金鋳物の推移



銅合金鋳物

用途別	生産	
	重量 kg	金額 千円
総数	29,869	15,081
産業機械器具用	3,039	1,580
電気および通信機器用	10,283	5,439
鉄道および車輛用	1,061	582
港湾および船舶機器用	322	190
軸受メタル	2,218	1,157
管継手	—	—
バルブコック	12,494	5,862
建築用	226	145
日用品	—	—
その他	226	126
対象工場数	7	生産前月対比 106

軽合金鋳物

用途別	生産	
	重量 kg	金額 千円
総数	5,653	2,620
産業機械器具用	374	181
繊維機械器具用	—	—
鉄道および車輛用	108	58
電気および通信機器用	4,631	2,192
精密機器用	—	—
農水産機器用	—	—
日用品	—	—
その他	540	189
対象工場数	5	生産前月対比 131

※本表の工場は下記の定義にもとづいたものである。

鉄鋳物については従業員10名以上、銅合金鋳物および軽合金鋳物については従業員5名以上の工場が調査の対象である。

雑 貨 部 門

(昭和31年11月度分)

概 況

金属製がん具

今月の生産は前月より11%下回った。これは出荷において輸出向44%と上回ったのに比し国内向において74%と減少した結果である。

草 靴

今月は生産において11%出荷において3%と減少し伸びなやみを見せている。

漆 器

今月は生産3%出荷21%と増加し順調である。

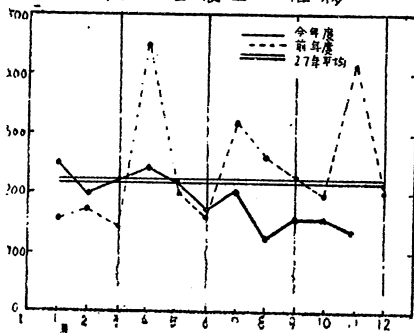
建築用コンクリートブロック

今月の生産数は13,146個で前月より18%減少し、いぜん冬期建築の需用減を見せている。

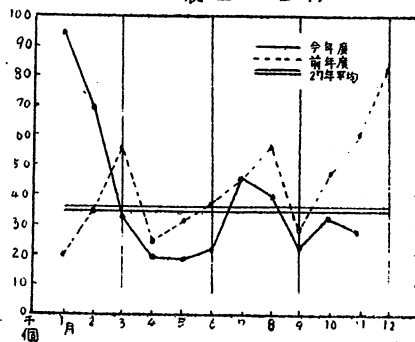
陶 磁 器

今月は前月生産対比90%出荷対比90%と、ともに減少した。

陶磁器製品の推移



がん貝製品の推移



業 種	区 分		生 産 数 量			出 荷 数 量						月 末 在 庫 数 量	事 業 所 数 (操業)	
	製 品 名	単 位	数 量	前 月 対 比	金 額	国 内 向			輸 出 向					
						数 量	前 月 対 比	金 額	数 量	前 月 対 比	金 額			
														千 円
	金 属 製 がん 具	個	29,200	% 89	千円 747	336	% 26	千円 16,284	884	% 144	千円 731	—	3(3)	
革 靴	総 数	〃	726	89	1,415	865	97	1,677	—	—	—	547	5(5)	
	男子 総 革 靴	〃	611	90	1,170	744	98	1,418	—	—	—	278		
	婦 人 〃	〃	118	87	245	121	84	259	—	—	—	266		
	そ の 他 靴	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3		
漆 器 (木製)	総 数	個	1,802	103	750	1,962	121	767	—	—	—	112	12(7)	
	食 器 類	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	容 器 類	〃	482	91	61	472	84	59	—	—	—	20		
	食 卓 子、膳 盆 類	〃	1,330	120	692	1,490	158	708	—	—	—	90		
	そ の 他	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2		
建 築 用 コンクリート ブロック	総 数	個	13,146	82	290	15,668	141	527	—	—	—	39,915	3(3)	
	A 種 { 基 本 型	〃	468	11	13	2,629	115	98	—	—	—	6,887		
	異 型	〃	—	—	—	319	28	11	—	—	—	1,557		
	B 種 { 基 本 型	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	異 型	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	C 種 { 基 本 型	〃	3,603	134	125	7,075	152	250	—	—	—	10,513		
異 型	〃	250	78	9	269	199	9	—	—	—	1,187			
	帳 壁 用 ブロック	個	8,825	105	143	5,376	137	159	—	—	—	19,771		
陶 磁 器	総 数	疋	136,364	90	22,673	131,512	90	22,727	—	—	—	69,976	11(9)	
	電 気 用 品 {	特 別 高 圧 用 碍 子	〃	42,263	108	16,299	42,263	108	16,279	—	—	—		—
		高 圧 用 碍 子	〃	1,427	108	1,340	1,427	108	1,340	—	—	—		—
		低 圧 用 碍 子	〃	3,274	101	3,567	3,274	101	3,597	—	—	—		—
		そ の 他	〃	0.34	—	432	0.44	—	578	—	—	—		—
	家 庭 用 品	〃	81,400	106	955	76,548	108	863	—	—	—	65,376		
	衛 生 用 品	〃	8,000	29	100	8,000	26	100	—	—	—	4,400		
そ の 他	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	200			
	赤 れ ん が	個	x	—	x	x	—	x	—	—	—	x	3(2)	

※対象工場数、生産数量及び出荷数量において2以下の事業所については公表を禁じられているので、金属洋食器、がらす製品は除外した。

がん具、革靴、陶磁器は5人以上の事業所、漆器、コンクリートブロック、赤れんがは全事業所である。

昭和31年工業統計調査の実施について

(商工調査係)

本年も12月31日現在で、工業統計調査を実施することになりました。

御承知のとおりこの調査は、全国の製造工業について、従業者数、原材料の使用額、出荷額等を詳細に調べ、製造工業の面からわが国の経済活動の実態を明らかにする最も重要な統計をつくるために行われるもので、いわば製造工業についての国勢調査であります。

作成された統計表は、通商産業行政の資料とするだけでなく、国の諸施策、特に、最近は、中小企業対策の基礎資料として、また、企業家の実務上の参考資料あるいは学界の経済分析その他の研究資料として広く利用されており、かつ、わが国の経済事情を海外に紹介するための具体的な資料となり、世界工業センサスの一環として重要視されています。

なお本県においては、特に総合開発事業の計画樹立に貴重な資料として利用されるのであります。

この調査は、統計法に基く指定統計であります。したがって各工場から申告された調査票を他に見せたり、漏らしたり、またこの結果を利害関係に使用するようなことは絶対にありませんから、安心してありのままを正しく申告していただくようお願いします。

調査の様式及び方法は大体前年と同様ですが、本年は昨年付帯調査として実施した「製造工場を経営する企業の本社または本店に関する調査」が、指定統計調査としての「丙調査」に改められ、また調査票甲に「半製品及び仕掛品額」が追加されました。一方、毎年調査の必要のない「事業所開設年月」、「原動機の台数及び公称馬力数」、「機械装置の設備状況」および「自動車保有台数」等の調査は行わないことになりました。

甲乙丙調査および丙調査の調査項目は次のとおりです。

◎甲調査(従業者4人以上の事業所)

1. 事業所名(ふりがなをつけて下さい)
2. 事業所所在地(電話番号も記入して下さい)
3. 本社または本店名(事業所名と同じ場合は「同上」と記入して下さい)
4. 本社または本店所在地(事業所所在地と同じ場合は「同上」と記入して下さい)
5. 公称資本金額または出資金額(31.12.31現在で、会社に限ります)
6. 兼営の有無
7. 経営組織(31.12.31現在)
8. 従業者数(30日を超える期間を定めて雇用されて

いる臨時の者および前2カ月の各月において18日以上または前6カ月において通算して60日以上雇用された臨時および日雇の者も常用労働者に含まれます)

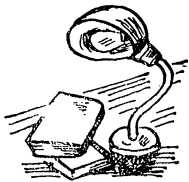
9. 月別常用労働者数(毎月末日現在数を記入して下さい)
10. 現金給与総額(31.1.1~31.12.31)
11. 原材料、燃料および電力の使用額ならびに委託生産費(31.1.1~31.12.31)
12. 製造品、原材料および燃料の在庫額ならびに半製品および仕掛品額(本年初~31.1.1現在一および本年末~31.12.31現在の総額を帳簿価額によって記入して下さい)
13. 有形固定資産の取得額、除却額および減価償却額(31.1.1~31.12.31)
14. 主要原材料名
15. 作業工程
16. 製造品の出荷額、在庫額等(製造品はと、事業所の所有に属する原材料によって製造された製品をいい、原材料を他に支給して製造させたものを含む、転売品または転売用の商品は含まれません)
17. 内国消費税額(物品税、酒税、骨牌税、砂糖消費税および揮発油税の税額の総額を記入して下さい)
18. 転売品販売価額および仕入価額(31.1.1~31.12.31)
19. 指定品目の自己消費量(31.1.1~31.12.31)

◎乙調査(従業者3人以下の事業所)

1. 事業所名(甲調査と同様に記入して下さい)
2. 事業所所在地(//)
3. 経営組織(//)
4. 従業者数(//)
5. 事業の内容
6. 製造品出荷額等(31.1.1~31.12.31)

◎丙調査(事業所2以上を経営する企業の本社または本店)

1. 本社または本店名(ふりがなをつけ、代表者の職氏名も記入して下さい)
2. 本社または本店所在地
3. 公称資本金額または出資金額(31.12.31現在)
4. 経営組織(31.12.31現在)
5. 主要業務(31.1.1~31.12.31)
6. 本社または本店の常用労働者数および常用労働者現金給与総額
7. 製造品、原材料および燃料の在庫額
8. 有形固定資産の取得額、除却額および減価償却額(31.1.1~31.12.31)
9. 本社または本店が発注した委託生産品(31.1.1~31.12.31)
10. 製造工場名簿(31.12.31現在)



(統)(計)(用)(語)(の)(解)(説)

〔国民表〕 一国あるいは、一地方の居住者全員について作成された死亡表で、男子表、女子表、男女合併表などに分れる。わが国にあける最近の国民表は、昭和33年8月厚生省が編さんした第九回生命表がある。

〔大納会〕 取引所における1年の最終立会のこと、

年末約会、納め相場ともいう。取引所によつて異なるが大体12月27、28日ごろを大納会としている。

なお1年最初の立会は初立会あるいは大登会で毎年1月4日に行われる。

編 集 室

◎22日は冬至だ。いよいよ寒さも本格的になつたが、町は歳末大売出しやクリスマスセールで大にぎわいだが全く年の瀬が迫つた感じが深い。ここにあわただしく過ぎようとしている1956年も、余すところ幾日もない。実に月日の流れは早いもので、編集室がこの仕事を始めてからすでに3年目に入つたが、編集や原稿作りに素人ながらも何とか努力して読者の皆様に喜ばれるものにしたと念願してきた。しかしどうしても場当たり式の寄せ集め原稿になつてしまい、皆様に多大の御迷惑をおかけしたことを心からお詫び申し上げます。文章をすること、文をまとめることが実に難しいことを今更ながら痛感するものである。わが国女流文壇の大御所Y女史も某雑誌にその苦しさをしみじみ述懐していたが全く驚入る許りである。われわれ素人が難しいことは当然である。現代作文の基本は思つていることや現実にあつたことをそのまま分りやすく書いて行くことであると思うが、なかなかそれができないのである。私たち素人はどうしても、文を美しく、立派なものにしようとして、思つていること

を十分表現できないでしまう。またややもすると主観的に陥つて、機関誌(紙)の客観的使命を失う恐れが多分にある。商業新聞でさえも輿論の力に左右されて行くのだから私たちの機関誌(紙)も常に読者の皆様から忌憚のない御意見と率直な御批判によつて、よりよいものに作り上げて行きたいと思つている。

ここに行く年を惜しみながら私たちは、過去を振り返つて、いろいろの出来事や生活態度に対し深く自己反省をして、新しい門出の教訓や心構えを作り、そうして公私とも平和で明るい社会の建設に努力しましょう。なお表紙の写真は水戸市内における歳末風景である。

◎世界の好景気や2年連続の豊作によつて、日本経済はますます好調をつづけているが、私たちは余りにも数量景気や投資景気、消費景気に酔い過ぎてはいないだろうか？この景気は来年も少しつづくだろうが、物価の横ばい状態が少しづつ騰貴の方向に踏み出しているを見逃してはならない。特に1万円札が近く登場することによつて、眠れる大獅子のインフレが揺り動かされねばよいかと心配する向も少くないが、これは1万円札などには縁遠いサラリーマンの思い過ぎだろうか？